

# 自己評価報告書

2020年3月現在

東放学園音響専門学校

# 目 次

1	学校の理念、教育目標	1
2	本年度の重点目標と達成計画	2
3	評価項目別取組状況	3
	基準 1 教育理念・目的・育成人材像	4
	基準 2 学校運営	7
	基準 3 教育活動	15
	基準 4 学修成果	25
	基準 5 学生支援	29
	基準 6 教育環境	41
	基準 7 学生の募集と受入れ	47
	基準 8 財務	54
	基準 9 法令等の遵守	60
	基準 10 社会貢献・地域貢献	66
4	2019年度重点目標達成についての自己評価	70

# 1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p><b>■学園理念■</b></p> <p><b>〈基本理念〉</b> 東放学園は「己と和と成長」を基本として、未来に向かって豊かな価値を創造し、メディアとエンターテインメントの発展に貢献できる人の育成を目指します。</p> <p><b>〈使 命〉</b></p> <p>①社会の一員として寄与できる人を育てます。 東放学園は、健全な学校事業活動を通じて、自己を磨き、社会の一員として寄与できる人の育成に努めます。</p> <p>②豊かな価値を創造できる人を育てます。 東放学園は、メディアとエンターテインメントの分野で、人との関わりから豊かな価値を創造する人の育成に努めます。</p> <p>③組織とともに成長できる人を育てます。 東放学園は、自己と組織との協調の実現に努め、共に成長し続ける人の育成に努めます。</p> <p><b>〈行動指針〉</b></p> <p>①私たちは、大きな視野に立って、東放学園に活かせる知識・技能・技術の向上に努めます。</p> <p>②私たちは、誠意・熱意・創意に基づく活動を通じて、良好な人間関係を築き、自己の能力と人との和を活かして、働きがいのある東放学園の風土を造ります。</p> <p>③私たちは、先見性を持ち、効果的に創造することにより、東放学園の価値を高め、継続的な発展を図ります。</p>	<p><b>■教育方針■</b></p> <p>私たち東放学園の教職員は、理念体系に基づいた以下の教育方針に則り、人の育成に努めます。</p> <p><b>実践教育</b> ～実力は現場を体験することで身につく～</p> <p>放送・映画・音楽・芸能の業界が求める人材は時代とともに変化しつづけています。TBS（東京放送教育事業本部）が学校を創設した当時から、業界と太いパイプで結ばれ、そのニーズをカリキュラムに反映させてきました。このような「現場主義」の環境だからこそ、業界で多くの卒業生が活躍しているのです。</p> <p><b>人間教育</b> ～信頼はあいさつから始まる～</p> <p>スタッフやキャストが集まって作品をつくる仕事では、チームワークが必要不可欠です。チームワークや信頼関係の基本であるあいさつをはじめとするコミュニケーションを重んじているからこそ、社会人として必要な豊かな人間性や社会性を身につけることができます。</p> <p><b>自立教育</b> ～表現は個の確立から始まる～</p> <p>クリエイティブな仕事に携わっていくためには、自分自身で道を切り開き、表現していくことが大切です。同じ目標を持った仲間が集う中で、知識・技術・技能を高めるとともに、自己を確立しているからこそ、自由な発想と各自の個性を伸ばすことができるのです。</p>

## 2 本年度の重点目標と達成計画

2019 年度重点目標	達成計画・取組方法
<p><b>【学修成果の可視化】(継続)</b>            昨年度の後期より、学科、学年、学期、それぞれの段階で何ができているか、今後、どのような技術や知識を身に着ける必要があるかを学生自身でチェックできるようにするために「目標達成チェックシート」を作成し、学生に配付した。            それが学生の学習能力の向上にどれだけ役立っているのかの検証までには至っていないため、今年度は、年度初頭より実施し、向上が図られているのかを検証する。            また、各自のシートを基に、教職員が個別に指導をすることで、苦手分野克服のためのフォローを行う。更に、各項目の集計によって苦手意識が強くみられるところは、授業での指導方法の改善に繋げる。</p> <p><b>【カリキュラム再構築 (3 か年) とアクティブラーニング化 (※1)】</b>            カリキュラム全体の見直しのために各科目のシラバスの検証を行い、類似しているものの整理や、時代として求められているスキルとして足りていない分野や科目がないかなどを検証する。更に、学生が目指す仕事とカリキュラムの関連性が理解できるように工夫することで、目標を見失わないようにする。            アクティブラーニングによる教育の充実を目指し、教職員や講師自身の指導方法の見直しを図り、学生の学力と意欲向上に繋げる。</p> <p><b>【その他】</b>            ・授業評価の促進と有効利用            授業評価アンケートを実施しているが、集計結果を知るだけに留まっており、効果的な役割を果たせていない。実施について再度見直し、それを活かしていく。</p> <p>※1「アクティブラーニング」：教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称【中央教育審議会答申用語集より】</p>	<p><b>【学修成果の可視化】(継続)</b>            ・学生個々の学修成果を確認する目標達成チェックシートを作成し、実施する。            ・当該シートによる学生の学習能力の向上について検証する。            ・全体的に理解力が弱いと思われるポイントを洗い出し、その結果を教員・講師で情報共有して、授業内容や方法の改善につなげる。</p> <p><b>【カリキュラム再構築 (3 か年) とアクティブラーニング化】</b>            ・学科ごとの「カリキュラムマップ」を作成し、自分が将来つきたいと思っている職種とカリキュラムの関連性が理解できるように示す。            ・昨年度に引き続き、カリキュラム全体の見直し、ならびに授業内容と方法を再検証し、アクティブラーニングを取り入れて、より充実した内容にしていく。            ・アクティブラーニングの実施状況の分析と改善点の洗い出し、ならびに次年度に向けた取り組みを検討する。            ・教職員に対して、担当する業務に関わる研修への参加を奨励する。            ・エンターテインメントビジネスの細分化により、新たな知識や技能を必要とするカリキュラム開発を行う。</p> <p><b>【その他】</b>            ・授業評価については、昨年度、設問の内容や対象科目の選定などを大幅に見直し、科目ごとの集計結果が視覚的にも分かりやすくする改善を実施した。今後は、当該結果を、カリキュラム、科目の内容、授業方法の改善にまでつなげていくよう運用する。</p>

### 3 評価項目別取組状況

#### ※評定の内容

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

# 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学園理念として「基本理念」「使命」「行動指針」を明確に定め文書化している。</p> <p>当理念に基づき工業専門課程として音響芸術科と音響技術科の2学科を設置しており、理念実現のための方法などを「教育方針」として定めている。</p> <p>また、関連業界が求める人材像や育成方法は時代とともに変化しており、より柔軟な対応が求められている。</p> <p>その中であって、学校や学科ごとに、専門性に立った育成人材像を「学科戦略表」に明示し、そのための取り組みをカリキュラムや学生指導において適切に実施している。</p> <p>教育課程や授業計画などの策定において、教育課程編成委員会を開催し、関連業界団体や企業からも協力を得ている。</p> <p>上記のような理念や教育方針に基づき、特色ある職業実践教育に取り組んでいるが、インターンシップ制度の積極的な運用など、関連業界や企業との協力をより進め、今後の学校運営を柔軟に行っていく必要がある。</p> <p>また、学校の将来構想に対して、個々の教職員がやるべきことを強く意識するための施策を行う。</p>	<p>理念や教育方針を学生や保護者、関連業界や企業に周知し、育成人材像を明確にするために、以下の3点について改善を行う。</p> <p>①関連業界との連携を強化するために、交流機会を多く作り周知する。多くの話し合いを持つ。</p> <p>②保護者会による具体的で理解し易い説明を工夫して周知する。</p> <p>③育成人材では、授業内容や指導方法について、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会などから出た意見に基づき改善する。</p> <p>学校での意思決定の根拠として「学科戦略表」をもとに判断することも、その都度、教職員に伝えて学校運営にあたる。</p> <p>また、学校の将来構想については、教職員会議や個別面談などを通じて教職員に周知し、各々が果たすべき役割を確認しながら学校運営を行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会の開催 学校の教育方針や人材育成方法、業界の現状と就職についてなど、学校が取り組んでいる内容への理解を深めてもらう。</li> <li>・学校関係者評価委員会の実施 高校の教員や関連業界などの第三者からアドバイスを受けて、改善に努力している。</li> <li>・教育課程編成委員会の実施 学生の育成やカリキュラム内容など、教育環境について関連業界からアドバイスを得て、改善に努力している。</li> </ul>

## 1-1 理念・目的・育人人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育人人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育人人材像になっているか <input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか <input type="checkbox"/> 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会の要請に的確に対応させるため、適宜見直しを行っているか	3	<p>学園理念として「基本理念」「使命」「行動指針」を明確に定め文書化している。</p> <p>当理念に基づいて工業専門課程として音響芸術科と音響技術科の2学科を設置しており、理念実現のための方法などを「教育方針」として定めている。</p> <p>学園理念は、東放学園ホームページや TOHO GAKUEN SCHOOL GUIDE、学生ガイドへ記載し、学生や保護者に周知しており、関連業界には、TOHO GUIDE にその旨を記載している。</p> <p>年に一回、理念が社会の要請とずれていないかを検証している。</p>	<p>理念や方針に基づき、より具体的な計画、方法などを策定することが課題である。</p> <p>また、理念などを周知するため左記の取り組みを行っているが、さらに浸透度を高めるための工夫が必要である。</p>	<p>各会議体などで、改めて理念や方針を確認しながら具体的な目標、計画などを策定するようにする。</p> <p>また、保護者会での説明や、関連業界との交流機会をより多く持つなどして、理念の浸透度を高めていく。</p>	<p>TOHO GAKUEN SCHOOL GUIDE (学校案内書)</p> <p>保護者のみなさまへ (保護者向けパンフレット)</p> <p>東放学園ホームページ</p> <p>学生ガイド (シラバスなど)</p> <p>「己と和と成長」掲示物</p> <p>東放学園コミュニティーサイト (教職員専用)</p> <p>学科戦略表</p> <p>TOHO GUIDE (企業向けパンフレット)</p>
1-1-2 育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程(学科)毎に、関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定において、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか	3	<p>学科戦略表を作成し、学科ごとに育人人材像を明確にしている。</p> <p>教育課程や授業計画などの策定において、教育課程編成委員会を開催し、関連業界団体からも協力を得ている。</p> <p>関連業界から講師を招き、講義や実習を行っている。</p> <p>教材などの開発においては、関連業界との取り組みはできていない。</p>	<p>教育課程編成委員会で挙げられた課題などは、関連業界との連携を踏まえて、授業計画の策定に反映させていく必要がある。</p> <p>関連業界と連携した教材開発は今後の課題である。</p>	<p>教育課程編成委員会は今後も継続して開催し、そこで得た知見を教職員へ周知し、具体的な施策に反映させていく。</p> <p>関連業界と連携し、授業計画のチェックや見直しを行い、そこで得た声を反映させた教材の開発を行う。</p>	<p>学生ガイド (シラバスなど)</p> <p>TOHO GAKUEN SCHOOL GUIDE (学校案内書)</p> <p>学科戦略表</p> <p>教育課程編成委員会議事録</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	3	両学科ともに企業や関連団体と連携し、インターンシップやゼミを含めて特色ある職業実践教育に取り組んでいる。	エンターテインメント業界において「音」に関する職種は多くあるが、それに対して、当校の教育内容の幅が限定的である。	インターンシップ制度の積極的な運用など、関連業界との関係強化に取り組むことにより、特色を持った新カリキュラムの開発を行う。	学生ガイド（シラバスなど） TOHO GAKUEN SCHOOL GUIDE (学校案内書)
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/> 中期的（3～5年程度）な視点で、学校の将来構想を定めているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を教職員に周知しているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	3	学園としての5カ年事業計画は示されており、教職員へは会議や面談を通じて周知している。 学生・保護者、関連業界には周知していない。	学校の将来構想に向けて、各教職員が、現在、何をすべきかの意識づけを更に強化する必要がある。	世の中の動きを積極的に掴み、学校の将来構想を踏まえて、個々の教職員が今、何をやるべきかを常に意識して行動できるようにするための施策を行う。	5カ年事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>理念・目的・育成人材像は学園の「基本理念」「使命」「行動指針」として明確に定められている。それを踏まえた上で「学科戦略表」を作成し、特色ある職業実践教育に取り組んでいるが、インターンシップ制度の積極的な運用など、関連業界との協力をより進め、今後の学校運営を行っていく必要がある。また、学校の将来構想に対して、個々の教職員がやるべきことを強く意識するための施策を行う。</p>	特になし。



## 基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><b>【運営方針】</b> 事業計画に関連した運営方針を明確化し、年度初めに開催される教職員全体会などにおいて学内に周知している。また、各種諸規程の整備を行っている。</p> <p><b>【事業計画】</b> 中期的構想に基づき、単年度並びに5ヵ年事業計画書を毎年度作成し、理事会・評議員会で執行状況の確認を行っている。</p> <p><b>【人事・給与制度】</b> 基本理念・事業計画に基づき、人材確保と育成が行われている。人事考課制度、賃金制度、採用制度などが整備されており、毎年度見直しを行っている。</p> <p><b>【意思決定システム】</b> 各階層別の会議体を設置し、必要に応じた意思決定が円滑になされている。今後も職務権限規程などの整備を検討し、適切かつ円滑な意思決定システムの確立につなげる。</p> <p><b>【情報システム】</b> 学生支援を目的とした、業務全般を広くサポートする各種システムが整備されており、データを一元化することにより業務の効率化が図られている。現在のシステム構成を基盤に、次世代の教育現場に順応したシステムの導入および構築についても検討が必要である。セキュリティ対策については、継続的に評価・見直しを行っている。</p>	<p><b>【運営方針】</b> 2019年度から、5ヵ年事業計画に基づいて、顧客のニーズに柔軟に応えるべく、教職員自らが変化に対応できるように様々な取り組みを行う。あわせて、リスク要因管理方針を明確にし、リスク要因などを洗い出し、対策のための取り組みを進める。</p> <p><b>【事業計画】</b> 特になし。</p> <p><b>【人事・給与制度】</b> 法改正に則った必要な改正を適宜行っていく。</p> <p><b>【意思決定システム】</b> 各規程との整合性を図りつつ、職務権限規程などの整備を進める。</p> <p><b>【情報システム】</b> セキュリティ対策について、学内のシステム運用者をはじめ、関連委員会や外部委託業者などと継続的に検討を進めていく。学生支援をより一層強化したシステム構築の必要性について吟味、検討する。</p>	<p>特になし。</p>

## 2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員等に周知しているか <input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	4	運営方針は部門ごとに事業計画書に目標などを明記し、年度初めの教職員全体会や教職員会議で、口頭及び文書で周知している。 運営会議などにおいて、随時チェックしている。	運営方針を遂行することについて、教職員全体で統一した意識を持つことが要求される。	新任者などもいるため、教職員研修などを活用して繰り返し説明する。	事業計画書（単年度）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の目的・目標に基づき、学校運営方針は事業計画書に明記し、全教職員に対して明示されている。今後も全教職員が実際の場面で実践していくことが求められる。	特になし。

## 2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画（3～5年程度）を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期、内容を明確にしているか	4	<p>5ヵ年事業計画を定め、さらに各当該年度における具体的な単年度の事業計画を策定している。</p> <p>事業計画をもとに予算を策定し、項目ごとの役割分担などを明確にしている。</p> <p>事業計画の執行については半期ごとに進捗状況をチェックしている。項目によっては、事業計画年度のスパンの組み替えに、柔軟な対応を取っている。</p> <p>また、事業報告書を年に一度作成し、理事会・評議員会にて報告を行っている。</p>	事業計画の進行の遅れや内容の変更などに関する対応を明確にすることが必要である。	事業計画の各部署での継続的なチェックと各会議体での検証を徹底する。	5ヵ年事業計画書 事業計画書（単年度） 事業計画中間報告書 事業報告書（単年度）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
5ヵ年事業計画書に基づいて、本学園全体・各部門の当該年度事業計画を策定し実行するとともに、運営会議などにおいて進捗状況を把握し、検証を行っている。また、事業報告書を年に一度作成し、理事会・評議員会にて報告を行っている。	次年度事業計画書の内容を年度末の役職者研修会で周知し、運営方針・年間事業計画の円滑な遂行ができるようにしている。一般教職員に対しては、年度初めの教職員全体会で、各部門から事業計画の詳細について説明し周知している。なお、事業報告書は東放学園ホームページに公開している。

## 2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4	<p>寄附行為に基づき理事会・評議員会を開催し、必要な審議を経て議事録を作成している。</p> <p>また、寄附行為の改正の必要が生じた場合は、適正な手続きを経て改正している。</p>	特になし。	特になし。	寄附行為
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	3	<p>必要な組織を構成し、本学園全体の組織を明示した組織図を整備している。学校運営に支障が生じないよう、必要に応じて改定している。</p> <p>各部署の業務分掌を整備した上で、円滑な組織運営のための規則・規程などを整備している。</p> <p>会議体・委員会の業務分掌を明確にしている。</p> <p>会議・委員会の議事録は、開催ごとに作成し、運営会議へ報告した後、教職員へ公開している。</p> <p>現況に合わせて、規則・規程などを改定する場合は、規程管理規程に基づき、運営会議などで審議し適正な手続きを経て改定している。</p>	規則・規程の策定期間が異なるため、内容に表記ゆれがある。	規則・規程の改定がなされる時に、他の規則・規程との関連性に充分配慮した上で、改定を担当する会議体・委員会にて表記ゆれを正していく。	組織図 各規程 会議・委員会・連絡会一覧 プロジェクト一覧

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	□学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか		業務分掌に基づき、毎年個人及び部署ごとに年間目標計画を作成している。特に個人については、自己研鑽や学内外の研修に関して具体的な計画を記入し、積極的に取り組んでいる。毎年度末に、その結果を確認し、役割と責任を明確にしている。	特になし。	特になし。	年齢・役割区分に基づくキャリア構築

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校運営を円滑に進めるために意思決定機能が明確な運営組織図を定め、目標達成に向けて、実際の懸案事項を処理・解決する会議体を効率よく機能させている。	特になし。

## 2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか	4	新卒・中途採用ともに、障がい者を含む多様な人材に対しても公正な採用を行っている。採用基準、手続き、情報公開については、就業規則などに定め運用している。	総合的な採用ガイドラインは整備されている。中途・障がい者については、採用過程における注意や配慮事項の記載が不十分である。	労働政策、雇用情勢も視野に、不十分な内容は加筆修正を進め、将来的に規程とする。(2015年度より継続して加筆中)	就業規則(4～7条) 事業計画書 教職員募集要項 就職情報サイトほか 採用ガイドライン
	<input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか	4	賃金規程に基づき、基本業績・役割業績などを基準とした賃金制度を定め運用している。	規程は法改正に合わせて柔軟に対応し、適切な運用をしているが、基準などについての定期的な見直しは不十分である。	法改正などの情報収集を常に行い、定期的な点検を実施することで、さらなる最適化を目指す。	就業規則(42条) 賃金規程
	<input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	4	評定は半期毎、および通年単位で実施し、これに基づき昇(降)格、昇(降)給を行う。評定は、年度初めに個々の役割に応じ策定する年間計画に対して実施している。目標に対する達成状況については、自己評価も踏まえたうえで評定を決定している。	被評価者が、目標の策定・実現をしやすいよう、役割区分の定義を設定(2018年)した。また、働き方改革を踏まえた項目も追加(2019年)した。基準はより明確にしたが、継続した考察は必要である。	定義に基づいた教職員のキャリア構築を可能とするため、個々の育成とも連動し、制度の定着を推進する。	就業規則(9条) 賃金規程(13.14条) 評定の基準 教職員の年齢・役割区分に基づくキャリア構築 役割区分の定義 年間目標計画 実績・通年評定の基準

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
人事・給与制度については、適切な運用をしている。引き続き、より良いものを目指すため、現行運用している基準などを規程として整備し、評価者・被評価者双方に、より解りやすく役立つものにしていく。更に、2-4「運営組織」と連動しながら、労働政策や雇用情勢(ダイバーシティの推進、様々な働き方の検討、有給休暇の取得促進ほか)に合わせた施策も実施し、教職員のモチベーションアップ・活性化を進めている。	特になし。

## 2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の事務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	4	組織図及び階層ごとの会議体を設置し、学校運営に必要な意思決定の判断基準を個々に規則・規程などで明確にしている。	特になし。	特になし。	組織図  会議・委員会・連絡会一覧  各種管理規程など

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
意思決定のために必要な会議体を設置し、それらに応じた意思決定がなされている。各会議体の持つ権限があり、運用段階において最終的には運営会議、理事会・評議員会において審議し決定している。	特になし。

## 2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化 に取組み、業務の効率 化を図っているか	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input type="checkbox"/> これらシステムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか <input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に（学生情報管理）システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか	4	<p>学生支援に基づいた情報管理および関連する業務処理を行うため、各種情報管理システムを連動し運用している。データは一元化され、最新の情報が保持できるよう更新を行っている。基幹サーバの定期更改や各システムの適宜更改によりシステムの安定稼働に努めている。</p> <p>セキュリティ対策としては、継続的に評価・見直しを行っている。</p>	<p>セキュリティ対策においては、過去年度より継続し注意を払っているが、不測の事態などへの対策について引続き評価・見直しを行う必要がある。</p> <p>また環境に即したシステム構築が成されているか、システムの見直しを行うとともに支援体制について吟味する必要がある。</p>	<p>セキュリティ対策として、学内のシステム運用者をはじめ、関連委員会や外部委託業者などと継続的に評価・見直しを進めていく。</p>	<p>各システムの構築図 各運用マニュアル 個人情報保護に関連する各種規程類</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生支援を目的とした業務全般を広くサポートする各種システムの連動が整い、適切な情報提供や業務遂行がなされている。現状での運用においては大きな問題はないと考えられるが、セキュリティ対策においては、継続的に評価・見直しを行うとともに、教育環境に即したシステムの導入および構築について検討が必要である。</p>	<p>（整備されている情報管理システム）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集システム</li> <li>・学籍管理システム</li> <li>・成績管理システム</li> <li>・パーソナルデータシステム</li> <li>・就職、デビュー情報システム</li> <li>・同窓会（卒業生管理）システム</li> <li>・予算、経理管理システム</li> </ul>



## 基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><b>【目標の設定】</b>            関連業界で必要とされている人材に対して、専門教育としての知識や技術力の向上を図るため、情報収集に努め、時代に合ったカリキュラムにするなど改善に努めている。            更に社会人としてのスキルも重視し、挨拶を基本とした指導から、主体性を持ち信頼を得られる人材育成に取り組んでいる。</p> <p><b>【教育方法・評価】</b>            職業教育としての充実化を図るため、関連業界との連携を更に強化して見直しを行い、より有効な内容や方法にしていかなければならない。そのためには、カリキュラム内容の改善と、技術の進歩について業界の動向を注視し、時代に合った業界標準教材による指導ができるようにする。            授業評価については、設問の見直し、指導方法、理解度などが分布図により分析しやすい工夫を行った。ただし、これを基に改善に取り組むまでには至っていない。            教育課程（カリキュラム）の決定は委員会を組織し、また外部からの意見を取り入れつつ行っているが、そのプロセスについての規程がない。カリキュラムは学校の根幹をなすものであり、その編成については明確な規程が必要である。</p> <p><b>【成績評価・単位認定】</b>            成績評価の基準については学則に規定され、学生ガイドに記載し明示している。成績評価の運用は進級、卒業認定会議を行い、客観性と統一性を確保しつつ運用している。</p> <p><b>【資格指導体制】</b>            専門学校の資格取得は、職業教育において強みの一つである。そのためにも、高い取得率、合格率が求められるため、徹底した指導に当たる必要がある。</p> <p><b>【教職員・組織】</b>            教職員の資質向上は学校の運営視点と教育専門的な視点から引き続き研修などの参加は必須である。また教職員の社会的視野を広げ、意識改革を進めなければならない。</p>	<p><b>【目標の設定】</b>            教員、講師ともに学生指導方法やカリキュラムの改善見直しを図るうえで、学校の目標や方針をしっかりと理解した組織作りに取り組む。特に学生の資質、能力、また時代の変化に合ったカリキュラムを編成する。また、教職員は「学科戦略表」の内容を再度確認して、目標の設定に活かしていく。</p> <p><b>【教育方法・評価】</b>            授業評価結果をもとに、教職員、講師と授業の取り組みについて話し合いを持ち、改善に繋げ、目的を達成するための施策とする。            就職先の幅を広げるためにも、まず基礎としてキャリア教育を行う。学生の興味の対象を拡大させると同時に就職意識を向上させ、就職率向上につなげていく。            教育課程編成を編成するプロセスを明確にするため、規程を作成する。</p> <p><b>【成績評価・単位認定】</b>            これまでの取り組みを継続していく。</p> <p><b>【資格指導体制】</b>            各資格について、学生へ取得の意味をしっかりと理解させる工夫が必要である。また、指導方法においても、取得率・合格率アップに結び付く改善を行う。</p> <p><b>【教職員・組織】</b>            新たな技術や知識を取得できるよう、専門分野に関連した研修への参加や、関連企業との交流を多く持ち、情報収集に努め、業務に活かせるよう積極的に働きかける。            組織については、バランスを保つために中期的な採用計画を行い、中途採用も含め、専門性と社会性に優れた人材を確保する。</p>	<p>関連業界で働いている卒業生の帰属意識が高く、業界事情についての情報量が多い。</p> <p>全教室を視聴覚室として整備し、実習室も業界標準機器を揃えている。</p> <p>教員・講師ともに特殊な専門性が必要なうえ、指導者としての資質も求められるため、安定した確保が難しい状況である。</p> <p>本学園の財産である「挨拶」を基本とした「コミュニケーション重視の教育」、本学園の教育の基本的な考え方は、学生、教職員全員で理解し実践する必要がある。            教職員や講師に対してだけではなく、来校者にも「自分から率先して挨拶をする」という習慣を学生に身につかせるため、まずは教職員が自覚を持って範を示し、学生指導にあたっていかなければならない。</p>

## 3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	3	職業教育に関する方針は定まっており、学科戦略表に明文化している。 しかし、教育課程の編成方針は文書化されていない。	教育課程（カリキュラム）は学校の根幹をなすものであり、その編成方針などは教職員の意思統一を図るためにも文書化が必要である。	教育課程編成の方針は文書化を早急に行い、職業教育に関する方針は学生ガイドに掲載する。	学生ガイド（シラバスなど） 学科戦略表 カリキュラム会議資料 保護者会配付資料
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	4	基本理念、教育方針に照らしあわせて作成された学科戦略表に、学科ごとの目標を明示している。各科目の目標到達レベルは学生ガイドに明示している。 また、昨年度より、学生個々の学修成果を可視化するため、目標達成チェックシートを作成し、配付している。 資格取得についての指導を行い、カリキュラムに対策講座の内容を盛り込んでいる。 「学内技能検定制度」も設定することで学生の能力向上に役立てている。	特になし。	特になし。	学生ガイド（シラバスなど） カリキュラム会議資料 学科戦略表 学内技能検定制度「TOHO License」 目標達成チェックシート

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念に沿った職業教育の方針は明文化されているが、教育課程の編成方針は文書化されていない。教育課程編成の根幹にあたり、教職員の意思統一を図るために文書化が必要である。 関連業界と協力して「目標達成チェックシート」を作成したことにより、教育到達レベルが可視化された。より効果的に運用していく。	学内技能検定制度「TOHO License」を設定している。

## 3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、必修科目、選択科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか	3	<p>教務教育部長を中心に各学科主任を配置し、年度ごとに教育課程の見直しや作成をする体制は整えられているが、明確な規程はない。</p> <p>授業科目の開設においては、専門科目と一般科目、必修と選択科目の配分に留意し、毎年度、カリキュラム会議で検証している。</p> <p>修了に関わる時間数は学生ガイド、オリエンテーションにより学生への周知は十分に行われている。</p>	<p>教務教育部長を中心に教育課程編成にあたっての規程を設ける必要がある。</p> <p>また、科目の内容や方法が、今の学生にとって魅力あるものであるか、モチベーションの低下につながっていないかを検証する必要がある。</p>	<p>教育課程編成にあたっての規程を設ける。</p> <p>また、授業評価アンケートの結果などに基づき、魅力ある科目の開設や授業方法の改善などを行う。</p>	<p>学生ガイド（シラバスなど）</p> <p>カリキュラム会議資料</p> <p>年間目標計画</p> <p>研修報告書</p> <p>進捗日誌</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	<input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、授業科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか <input type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか <input type="checkbox"/> 授業科目について、授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか <input type="checkbox"/> 教育課程は定期的に見直し改定を行っているか		<p>カリキュラム会議により毎年度検討し、適切な授業形態での教育内容を提供している。</p> <p>講義内容について、各科目の目標を設定している。</p> <p>職業実践教育として、技術・技能の組織的な教育を行い、常に時代に合った内容を取り入れ実施している。</p> <p>履修登録については、開講前のオリエンテーションやホームルームなどで指導を行い、一人ひとり履修状況のチェックをしている。</p> <p>授業計画は学生ガイド(シラバス)に科目ごとに明示している。</p> <p>教育課程は毎年度、カリキュラム会議により検討し改善を行っている。</p>	<p>各授業担当者により行われている授業方法が適切か、学校としての確認が必要である。</p> <p>関連業界との関わりをより密にし、情報交換の場を多く作っていかねばならない。</p>	<p>授業見学や研究発表会など、授業内容や指導方法などを教職員間で情報交換する機会を作り、学習指導を充実させる。</p> <p>教材作成プロジェクトを立ち上げ、より実践的な職業教育を行う環境を整備する。</p> <p>また、多くの実習演習プログラムを実施し、講義科目についてはアクティブラーニングを積極的に取り入れていく。</p>	<p>学生ガイド(シラバスなど)</p> <p>進度日誌</p> <p>カリキュラム会議資料</p> <p>授業評価集計結果</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	3	<p>教育課程の編成について在校生へは授業評価アンケートを実施している。</p> <p>関連業界の意見や評価の聴取は教育課程編成委員会を設置して行っている。</p> <p>卒業生への意見聴取はアンケート方式で実施している。</p>	意見や評価の聴取を行う仕組みはあるが、周知の不足などフィードバックするための仕組みが機能していないため有効な活用がなされていない。	在校生、卒業生、関連業界から聴取した意見を指導内容へ有効に活用するために、カリキュラム会議などでの検討など、すべての教職員へ伝わるような仕組みをつくる。	<p>教育課程編成委員会規則(内規)</p> <p>教育課程編成委員会議事録</p>
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか <input type="checkbox"/> キャリア教育の効果について卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	3	<p>就職講座で使用している教材についても学校独自のテキストを作成するなど工夫がなされている。</p> <p>1年次前期から「未来ノート」を使用してキャリア教育を実施し、アクティブラーニングを取り入れている。</p>	卒業生や就職先からの意見聴取や評価を反映させるための施策を、授業や個々の相談で活用しているが、指導方法に更なる工夫が必要である。	卒業生や関連業界、企業などから意見を積極的に聴取し、授業内容や方法の改善につなげる。	<p>就職講座各種資料</p> <p>未来ノート(就職講座用テキスト) および教員マニュアル</p> <p>パーソナルデータシステム</p> <p>キャリアガイダンス(就職活動用テキスト)</p> <p>未来ノート(就職講座用テキスト) および教員マニュアル</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-9-4 授業評価を実施しているか	<input type="checkbox"/> 授業評価を実施する体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか <input type="checkbox"/> 授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか <input type="checkbox"/> 教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	3	昨年度より授業評価アンケートのフォーマットを全面的に見直し、全ての講義科目を対象に実施している。また、集計結果を授業担当者にフィードバックしているが、関連業界との協力体制での実施はしていない。	アンケート結果を基にした授業改善に向けた話し合いは、一部の授業担当者に留まっており、有効利用しきれてはいない。	授業評価アンケートの結果をもとに授業担当者と同様、授業内容、指導方法、成績評価についての明確な要望を伝え、PDCA 循環を行う。	授業評価アンケート 授業評価結果

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>職業実践教育に関する方針は学科戦略表に明文化されているが、教育課程編成に係る規程などが文書化されていない。</p> <p>授業評価アンケートは、設問の内容や方法の見直しを行い、全講義科目を対象に行っている。しかし、具体的な授業内容や方法の改善に至っているとまでは言えない。</p>	学校独自の就職活動用テキストである『キャリアガイダンス』を作成し、授業で使用している。

## 3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	4	<p>成績評価の基準については学則に規定され、学生ガイドに記載し明示している。</p> <p>成績評価の運用は進級、卒業認定会議を行い、客観性と統一性を確保しつつ運用している。</p> <p>他の教育機関の履修についても、学則に規定し適切に運用している。</p>	特になし。	特になし。	学則 成績表 成績評価表 卒業判定資料 進級判定資料 学生ガイド（シラバスなど） 出席簿
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<input type="checkbox"/> 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	3	<p>学内コンテストについては状況を把握しているが、学外へのコンテスト参加はあまり活発に行われていないのが現状である。</p>	<p>コンテスト参加数が少ないことの一因として学生による作品制作の機会の少なさが挙げられる。</p>	<p>新たに学内コンテストを企画し、学生の作品制作を行う目的を創出する。</p> <p>また過去の学生作品の閲覧環境を整備し、意欲向上へとつなげる。</p>	特になし。

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>進級や卒業に必要な時間数については明確な基準に基づき、適正に運用されている。</p> <p>また、学内外コンテストへの学生の参加を促進し、学生の意欲と技術向上へとつなげていく必要がある。</p>	<p>修了認定については成績評価に基づき行っているが、修了認定基準当落線上の学生については状況を確認し、公平性と客観性に留意しながら、認定会議にて追加課題を与え、その合格をもって認定することがある。</p>

## 3-11 資格・免許取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	3	取得目標としている資格、免許の内容・取得の意義については明確にしている。 対策講座についても、取得の意義を明確にして開講している。	資格取得によるメリットをどのようにして周知し、資格取得による技能向上や仕事への意識づけに繋げていくかが課題である。	資格ごとに担当教職員を決める。 各資格を可視化するなどして学生にわかり易く伝え理解させる。	学生ガイド（シラバスなど） 各種認定試験募集案内
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	3	資格・免許の取得については対策講座を設け、資格取得ならびに合格率向上に注力している。	不合格者および卒業後の指導体制は不十分である。	卒業後に取得を目指す場合の相談窓口の開設や補講期間の情報をホームページなどに載せて対応する。	各種試験の合格実績 学生ガイド（シラバスなど）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
取得目標としている資格、免許の内容や取得の意義は明確にしている。対策講座も開設している。資格取得によるメリットをどのようにして学生に周知し、それによる技能向上や仕事への意識づけに繋げていくかが課題である。 卒業後の資格取得をサポートする体制を整える必要がある。	検定や資格試験への受験を奨励するため、学校があらかじめ指定した検定や試験に合格、あるいは一定の点数を取得した学生に対して、カリキュラム上、一つの科目として時間数を認定する制度を設けている。



## 3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 教員の採用計画・配置計画を定めているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比など教員構成を明示しているか <input type="checkbox"/> 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか	3	<p>教員として必要な能力・資質は、学園の人事評価資料に明確に定められている。</p> <p>科目により求められる技能の資格については取得するよう伝えている。</p> <p>新任教員には教育担当者を置き、資質向上を図っている。</p> <p>舞台機構調整技能士などの有資格者や、関連業界での業務経験のある教員・講師を確保している。関連業界団体などから講師の派遣を受けるなどの連携をとっている。</p> <p>法人本部（人事育成部）が中心となり、採用計画などを作成している。</p> <p>教員は、学生ガイドにて教職員紹介として写真付きで表示しているが、非常勤である講師は記載がない。</p> <p>募集・採用手続き・昇格措置などは、法人本部（人事育成部）が中心となり明確に定めている。</p> <p>教員別時間割、成績情報管理システムによって教職員一人ひとりの授業時数などは把握できている。</p>	<p>専門性を高めるカテゴリーが限定的になりがちで、指導内容に偏りが生じる。音に関わる仕事全体について広い知識と技術力を身に付け、適応力を高める必要がある。</p> <p>若い世代の教育分野での指導者が不足している。</p> <p>年齢別による人員比率に偏りがある。教員・講師の年齢分布を分析し、教員採用の計画的な募集について検討が必要である。</p> <p>専門性の必要な教務系の人材確保ならびに授業時数の偏りの改善が課題である。</p>	<p>自己研究や研修に参加するなどして情報を収集し、専門性を高める。</p> <p>業界関連団体との連携により、現場スタッフの派遣などによる授業運営を図る。</p> <p>中期的な採用計画を立てる。</p> <p>授業時数の偏り改善のためにも新規講師採用などによる効率化を図る。</p>	<p>教職員、講師の経歴書 研究紀要 学生ガイド（シラバスなど） 授業評価結果 適正評価表 人事評価資料 時間割表 成績情報管理システム</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	3	<p>教員には毎年度、年間目標計画の提出や上長との面談を通じて、自己の資質向上や自己研鑽にどのように取り組むかを明文化させるように指導している。</p> <p>また、関連業界団体などが主催するセミナーに参加させるなど、教員の研究活動や自己啓発の支援を行っている。</p>	<p>関連業界の専門研修では、技術の進歩や流行など、最新の情報を集めるために、積極的に参加していくよう教員の意識を高める必要がある。</p> <p>教授力を高めた実績を研究成果として紀要にまとめることなどが徹底できていない。</p>	<p>関連業界による研修では、参加することの意義を理解させ、キャリア開発に取り組むよう支援する。また、研修によって得た知見を活かしていくためにも、研究紀要を提出させる。</p>	<p>年間目標計画 各種イベントの参加資料 研究紀要 学生ガイド（シラバスなど）</p>
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 分野毎に必要な教員体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか	3	<p>専門分野ごとに必要な教員体制は整備されており、教員組織による業務分担・責任体制は会議などで決定し、規程などで明確に定めている。</p> <p>学科ごとに教員・講師を含め複数で同じ科目を担当し、連携・協力して授業を行っている。</p> <p>授業内容については、カリキュラム会議や主任会議などにおいて組織的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>授業内容や教育方法の改善は教員個人個人の工夫が必要だが、組織的な取り組みを充実させていくことが課題である。</p> <p>教育方法の改善として、アクティブラーニングの導入に向けた取り組みを行っているが、一部の授業に限られ、本格的な導入には至っていない。</p>	<p>学科ごとに、授業内容の確認と授業方法について半期もしくは年度末にミーティングを開き、次年度に向け改善点の洗い出しを行う。</p> <p>アクティブラーニングについては、内部の教職員だけではなく、講師にも導入に向けた啓発を行っていく。</p>	<p>カリキュラム会議資料 役割担当表</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教員には毎年度、年間目標計画の提出や上長との面談を通じて、自己の資質向上や自己研鑽にどのように取り組むかを明文化させるように指導している。専門分野ごとに必要な教員体制は整備されており、教員組織による業務分担・責任体制は会議などで決定し、規程などで明確に定めている。</p> <p>研究活動をまとめた研究紀要の提出や、アクティブラーニングを取り入れるなどの授業方法の改善が必要である。</p>	<p>関連業界全体で若い人材確保に苦勞している状況の中、教員の確保も厳しい状況である。</p>

## 基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><b>【就職率】</b> 就職率の数値目標を設定して取り組んでいる。学生の就職への意識づけと知識・技術の修得・向上を図るため、東放学園キャリアサポートセンターとの連携を含め具体的施策が必要である。</p> <p><b>【資格・免許の取得率】</b> 授業や対策講座などで資格・検定取得の向上に努めているが、資格・検定試験の受験者を増やし、高い取得率、合格率を維持することが課題である。 試験会場として校舎を提供するなど、主催団体とも協力体制を取っている。</p> <p>学修による成果・成長を感じられるような教育体制も必要である。成長実感があり自信が持てるような教育指導や仕組みを構築することが課題である。</p> <p><b>【卒業生の社会的評価】</b> 卒業生の社会的評価・活躍などの情報を TOHO 会（同窓会組織）と連携して収集し、学修の成果として学園の将来に結びつけなくてはならない。</p>	<p><b>【就職率】</b> 学修成果として、まずは就職率の単年度目標数値を達成している。そのために現行のキャリア支援を行いつつ、年度の求人傾向や必要な人材、企業による新人育成方法などの情報を集めて、具体的に効果的な施策を検討・実施する。</p> <p>就職講座や面接指導の時間は、学生個人々々に対して細かく丁寧な指導を行う。また学校全体で、就職する雰囲気づくりを行う。就職に失敗しているポイント（原因）を見つけ、具体的対策を講じていく。</p> <p><b>【資格・免許の取得率】</b> 資格取得に向けて、今後も学生が受験しやすい学修環境を設け、受験者数とともに合格率も上げ、学修の成果が表れるようにする。</p> <p><b>【卒業生の社会的評価】</b> 関連業界団体主催のコンテストなどの結果や授賞式などへ参加して卒業生の動向や活躍を把握し、情報を取得する。</p>	<p>卒業生からの求人も多く、関連業界との繋がりを密に取っている東放学園キャリアサポートセンターの積極的な働きかけの成果により、求人数は高い水準を維持している。</p> <p>資格取得は、技術分野においては就職先で資格取得について問われることが少なく、必須として扱づらい。</p> <p>昨年度より、検定や資格試験への受験を奨励するため、学校があらかじめ指定した検定や試験に合格、あるいは一定の点数を取得した学生に対して、カリキュラム上、一つの科目として時間数を認定する制度を作った。</p> <p>卒業生が関連業界で活躍している情報は日々入って来ているが、その活躍ぶりを公表できない職種もあり、東放学園ホームページや TOHO GAKUEN SCHOOL GUIDE でアピールできないケースがある。</p>

## 4-13 就職率

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率等のデータについて適切に管理しているか	3	<p>就職講座を開講し、数値目標を設定して就職担当者を中心に学生の就職活動を支援している。</p> <p>学生からの就職関連書類の提出や個別相談により、就職活動状況を把握している。</p> <p>東放学園キャリアサポートセンターなどを通じて、常に情報収集を行っている。</p> <p>毎年度、面接練習を含めた就職セミナーや、関連する企業による説明会を学内で実施している。</p> <p>2年生の後期に実施していた企業説明会を、一昨年度から2年生の前期に実施している。</p> <p>就職率などのデータについてはパーソナルデータシステムを活用し、また東放学園キャリアサポートセンターとも連携して適切に管理している。</p>	<p>就職活動に向けて学生への指導方法を工夫していくことが課題である。</p> <p>学生や職種の多様化に対応するために、姉妹校との合同セミナーや説明会への参加も出来るような環境を整えることが必要である。</p> <p>また、より多くの職種や企業の情報を与えて可能性を広げなければならない。</p>	<p>求人情報のメール配信や、メールでの相談を実施する。</p> <p>就職相談予約サイトを開設し、気軽に相談できるような体制作りを行う。</p> <p>また、クラスアドバイザーおよび副アドバイザーと連携し、個々の学生に対してより一層、丁寧に対応していく。</p> <p>各校就職担当者間の連携で、学園全体での取り組みとしてセミナーなどを開催する。</p> <p>東放学園キャリアサポートセンターと共に様々な企業との接触機会を増やし、情報収集に努める。</p> <p>今まで以上に企業との接点を増やすことと、招聘する企業は職種が偏らないようにする。</p>	<p>会社説明会・会社訪問・入社試験報告書</p> <p>内定報告書</p> <p>学内企業説明会案内</p> <p>パーソナルデータシステム</p> <p>キャリアガイダンス(就職活動用テキスト)</p> <p>未来ノート(就職講座用テキスト) および教員マニュアル</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>就職講座を通じて、就職担当者から具体的なアドバイスやサポートを行っている。また、面接練習を含めた就職セミナーや企業説明会を毎年度開催している。</p> <p>メール相談や就職相談予約サイトを活用して、より一層丁寧な指導をするとともに、クラスアドバイザーと連携して、学生を細かく見ていくことが重要である。</p>	<p>エンターテインメント業界の企業では、雇用形態がアルバイトあるいは契約社員からという場合が少なくない。正社員雇用にこだわると就職が難しいこともあり、学生の経済的状況なども踏まえながら、待遇面でより良い条件の企業を紹介する必要がある。</p>

## 4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取組はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか <input type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	3	<p>資格や免許の取得率に対する具体的な目標数値は定めていない。</p> <p>特別講座やセミナーなどを開催し、学習支援に取り組んでいる。</p> <p>合格実績、合格率、全国水準との比較を行い、毎年度、指導方法の改善を行っている。</p>	資格取得によるメリットをどのようにして周知し、資格取得による技能向上や仕事への意識づけに繋げていくかが課題である。	学生に対して、各資格の内容について説明し、取得することのメリットを伝えるなど、指導方法の改善を行う。	特別講座掲示 セミナー掲示 学生ガイド（シラバスなど）  TOHO GAKUEN SCHOOL GUIDE （学校案内書）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>資格について、取得率に対する具体的な目標数値は定めていないが、全国水準との比較を行い、毎年度、指導方法の改善を行っている。</p> <p>資格取得によるメリットをどのようにして周知し、資格取得による技能向上や仕事への意識づけに繋げていくかが課題である。</p>	<p>検定や資格試験への受験を奨励するため、学校があらかじめ指定した検定や試験に合格、あるいは一定の点数を取得した学生に対して、カリキュラム上、一つの科目として時間数を認定する制度がある。</p>

## 4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業・施設・機関等を訪問するなどして卒業後の実態を調査等で把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	3	<p>就職先の企業に対して本校卒業生の在職調査を行っている。また、教職員が企業訪問を行い、業界の動向について把握するよう努めている。</p> <p>関連業界で行われている表彰式では、受賞者が卒業生かどうか常に調査している。</p>	卒業生の在職状況においては、本人からの申告によるため卒業後の把握が難しい面もある。	卒業生が在籍する企業を教職員が訪問するなどし、企業との関係を保ち、卒業生の状況も把握していく。	TOHO会（同窓会組織） TOHO会ホームページ Colorful（同窓会会報誌）  卒業生在職調査

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
企業への卒業生在職調査をはじめ、業界での活躍などを知るためにも、卒業生が在籍している企業を訪問するなどして、業界の動向について把握するよう努めている。	卒業生が関連業界で活躍している情報は日々入って来ているが、その活躍ぶりを公表できない職種もあり、東放学園ホームページやTOHO GAKUEN SCHOOL GUIDEでアピールできないケースがある。

## 基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><b>【就職等進路】</b> 毎年度、安定した高就職率を維持していくことは専門学校における最重要テーマであり、社会的意義と認識している。本校では学生に専門的知識を身につけさせ、更には就職担当者・クラスアドバイザー・キャリアサポートセンターが三位一体となって就職率の向上に努めている。</p> <p><b>【中途退学者】</b> 可能な限り中途退学者を出さない努力が必要である。退学理由は経済的理由、進路変更、人間関係、学習内容の相違、卒業・進級不認定など様々である。学生の変化を素早く察知し、その情報を教職員全員で共有し、早期に対応することが肝要である。また保護者との連携をすることで本意な退学の予防につなげている。</p> <p><b>【学生相談】</b> 学生生活における相談はクラスアドバイザーを中心に、気軽に相談できる雰囲気づくりを心掛けている。 相談室を設置し、11月からは、精神保健福祉士によるカウンセリングも受けられるようになった。</p> <p><b>【留学生相談】</b> 世界各国からの留学生が在籍しており、クラスアドバイザー、留学生担当者、留学生センターと緊密に連携し指導にあたっている。今後はクラスアドバイザーもビザ関連などの知識を習得する必要がある。更に留学生の相談体制および就業先開拓の強化が必要である。</p> <p><b>【学生生活】</b> 経済的支援においては、事案毎の奨学金拡充をすることで学生の選択肢を広げることが必要である。</p> <p><b>【保護者との連携】</b> 近年は毎年度、保護者会を実施しており、年々参加者数も増え、学校に対する保護者の関心の高さが窺える。保護者の多くは学生の就業先企業および就職活動状況、成績、学校生活の様子などに興味関心があり、教職員間での情報共有の徹底が必要である。</p> <p><b>【卒業生・社会人】</b> 転職支援などの卒業生支援は、同窓会組織である TOHO 会やキャリアサポートセンターと連携し行っている。社会人経験者や社会人学生に対しては原則、新規学卒者と同じ扱いである。但し新聞奨学生及び勤労学生については履修に於いて時間割などの優遇を行っている。</p>	<p><b>【就職等進路】</b> 1年次より学生の就労観を高めるべく、就職担当者およびクラスアドバイザーがキャリアサポートセンターと連携し、常に最新情報を学生に提供して行く。</p> <p><b>【中途退学者】</b> 中途退学の要因を明らかにして、問題があれば直ちに具体的対策を講じる。カリキュラムに起因する退学（難易度、指導方法など）も考えられる為、学生の資質や能力も考慮する。また近年はメンタルに起因する退学者も増加傾向にあるため、時代の変化を捉えつつ改善を行う。</p> <p><b>【学生相談】</b> 精神保健福祉士のカウンセリングは、アドバイザーによる告知や掲示板にて紹介しているが、専用の予約サイトを作成するなどして、より利用しやすい環境作りを行う。</p> <p><b>【留学生相談】</b> 今後、留学生の入学比率が高まることも考えられるため、教職員全員が研修会に参加するなどして、留学生の受入れから卒業迄に必要な知識および日本国内で働くための基本的ルールを知るよう努める。</p> <p><b>【学生生活】</b> 奨学金拡充には様々な問題があり今後の検討が必要である。 新制度の「高等教育の修学支援新制度」の説明会開催、及び相談に対応できるよう整備する。</p> <p><b>【保護者との連携】</b> 今年度、姉妹校では ICT 技術を活用し、授業の出席管理を行い保護者でもアクセスできるシステムの検討が行われており、順次グループ校に導入予定である。これは保護者との情報共有が出来、連携を深め、出席不良の問題に早期に対応することが可能となる。</p> <p><b>【卒業生・社会人】</b> 特になし。</p>	<p><b>【就職等進路】</b> 年間複数回にわたり、様々なジャンルの企業を招き、学内説明会を開催することで、学生と就業先とのミスマッチを防ぐようにしている。 また、「就活着こなし・マナー講座」や、労働基準監督官による「労働法セミナー」を開催している。</p> <p>就職先に対する学生の志向が多様化している為、これに対応すべくキャリアサポートセンターが中心となって、日々求人の開拓に努めている。</p> <p><b>【留学生相談】</b> 留学生センターと連携して、留学生の在留期限チェックなどを行っている。また留学生の内定先企業に対しては、企業ならびに留学生本人が、ビザについて、どのような手続きが必要となるかについて留学生センタースタッフが手厚くフォローしており、企業からの信頼を得ている。</p> <p><b>【卒業生・社会人】</b> キャリアサポートセンター主催のセミナーにおいて、卒業生・関連業界のアプローチや研修実施等の実績がある。</p>

## 5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 就職説明会等を開催しているか <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方、面接の受け方など具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか	3	<p>クラスアドバイザー、就職担当者、東放学園キャリアサポートセンターという3段階のサポート体制をとっている。</p> <p>また求人情報はJIST(就職情報検索システム)を使用して、学内・学外問わず閲覧できるようになっている。</p> <p>パーソナルデータシステムを活用して、学生の動向や就職活動履歴などの情報共有が可能な状態になっている。</p> <p>会社訪問や入社試験に行った際には報告書を提出させており、それをパーソナルデータシステムで教職員が情報共有できるようになっている。</p> <p>JAPRS(日本音楽スタジオ協会)、JPPA(日本ポストプロダクション協会)といった業界団体とも交流を深め、情報交換をするとともに、企業説明会を積極的に開催するようにしている。</p> <p>授業内や就職セミナーにおいて、履歴書の書き方や面接対策などを行い、細かいサポートを行っている。また、自己開示や自己表現が自然にできるよう指導している。</p>	<p>専門学校生は、日常を授業や課題作成に取られてしまい、求人情報検索などを行って最新の情報を得ることが困難な場合がある。</p> <p>また、求人票に雇用条件が明示されていない場合は、「若者雇用促進法」に基づき、明確に示すよう企業に対して啓発していくことが必要である。</p> <p>就職支援が、クラスアドバイザーではなく就職担当者任せになりがちである。</p> <p>週に1回のホームルームは1年次にしか開催されないため、クラスアドバイザーが学生の動向や、何を考え、何を迷っているのかなどの把握ができていない可能性がある。</p> <p>企業説明会を積極的に開催し、どうしても閉鎖的な環境になりがちな学生を外の空気に触れさせることが必要である。</p> <p>面接対策といってもテクニックのみになってしまう場合がある。</p>	<p>就職担当者とクラスアドバイザーとの連携を強化する。求人開拓は東放学園キャリアサポートセンターが主業務であるが、タイムリーに学生に情報を提供することが重要である。</p> <p>求人は、雇用条件を明確にするなど、法律を遵守した形で提供していく。</p> <p>クラスアドバイザーと副クラスアドバイザーの就職支援に関する意識を向上させる。</p> <p>ホームルームの開催が全てではないが、授業以外の時間でもクラスアドバイザーと学生が接点を持てるような時間を作る。</p> <p>テクニックのみではない自己表現の能力を高めるように指導していく。</p>	<p>キャリアガイダンス(就職活動用テキスト)</p> <p>学生ガイド(シラバスなど)</p> <p>時間割</p> <p>JIST(就職情報検索システム)</p> <p>会社説明会・会社訪問・入社試験報告書</p> <p>パーソナルデータシステム</p> <p>参加企業一覧</p> <p>就職セミナー実施概要</p> <p>進路ガイダンス実施概要</p> <p>就職講座の授業資料</p> <p>未来ノート(就職講座用テキスト)および教員マニュアル</p>



小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
5-16-1 続き	□就職に関する個別の相談に適切に応じているか		<p>就職に関する個別の相談は、対面、メール、電話など様々な形態で対応している。</p> <p>更に、求人情報のメール配信や就職相談予約サイトを開設するなどして、気軽に相談できるような体制作りを行っている。</p>	<p>関連業界以外の就職先への斡旋など、ケアが完全ではないところがある。</p>	<p>本校に寄せられる業界求人だけでなく、人材エージェントの活用や、ハローワークへの紹介なども積極的に行っていく。</p>	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>非常に細かく丁寧な指導を心がけ、クラスアドバイザー、就職担当者、東放学園キャリアサポートセンターが協働・情報共有し、学生個々人のニーズに合わせた対応を行っている。</p>	<p>関連業界の特殊性で、正社員採用ではなく、契約社員、試採用やアルバイトで就業してから採用されるケースがある。</p> <p>留学生に関しては、就職活動及び今後日本での就労にあたり、更なる日本語のスキルアップを図るため、日本人と同等レベルの日本語講座を授業として取り入れている。</p>

## 5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<input type="checkbox"/> 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか <input type="checkbox"/> 指導経過記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか <input type="checkbox"/> 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	3	<p>退学者数については常に把握し退学率も算出している。面談を必ず実施し、退学に至るまでの経緯や理由を聞き取り、保護者への確認も行っている。</p> <p>学生との面談内容はパーソナルデータシステムに記録し、教職員は随時閲覧できる環境にある。</p> <p>クラスアドバイザーが中心となり出席状況の確認を行い、無断欠席が続いた場合は、本人もしくは保護者に連絡をとっている。また、教職員会議や主任会議において情報を共有している。副アドバイザーを配置し、よりきめ細かい対応をしている。</p> <p>心理面ではカウンセラーの配備や、継続して24時間相談ダイヤルを案内している。今年度後期より週1回、精神保健福祉士による学生相談室の開設を再開している。また学習面では補講や個別指導、再試験などの補修体制を整えている。</p>	<p>欠席など学生の生活態度の変化を早期に把握し、個別に対応する必要がある。学生の個々の特性を見極めた上で対処することが望まれる。</p> <p>また、退学の原因がカリキュラムによるものもあり得るため、改善が必要である。</p>	<p>退学要因は面談だけではなく、アンケート調査などを実施する。また、教職員間でケーススタディを行い、個々に対応することができるノウハウを習得する。</p> <p>退学がカリキュラムに起因する場合もあり得るため、学生のニーズや、業界からの要望とのバランスを取りつつ、抜本的なカリキュラム改善を実施する。</p> <p>また、学校環境の改善も検討していく。</p>	<p>退学願 学生ガイド（シラバスなど） 学籍情報管理システム パーソナルデータシステム</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>中途退学者の低減に向けて、クラスアドバイザーが丁寧に対応し経緯や事情を聞き取っている。また、本人のみならず保護者の対応も欠かさず行っている。今後は、学校起因を含めあらゆる観点から分析、改善する姿勢が必要である、それがカリキュラムや学校の環境にある場合は、抜本的な改善が必要である。</p>	<p>特になし。</p>

## 5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか <input type="checkbox"/> 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか <input type="checkbox"/> 相談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 関連医療機関等との連携はあるか <input type="checkbox"/> 卒業生からの相談について、適切に対応しているか	3	<p>精神保健福祉士による学生相談室を開設し、学生はカウンセリングを受けることができる。</p> <p>相談室を設置しており、日頃から教職員に気軽に相談できる環境を整えている。</p> <p>案内は学生ガイドや校内掲示、オリエンテーション時に行っている。</p> <p>教職員と学生との面談内容はパーソナルデータシステムに記録し、他の教職員も随時閲覧できる環境にある。</p> <p>近隣の医療機関と校医契約を締結している。また、少量の市販薬などは常備している。</p> <p>卒業生支援室を中心に、卒業後も相談しやすい環境を整備している。</p>	<p>精神保健福祉士による相談は週1日で3時間という限られた時間での対応となり、授業の関係で相談を受けられない学生が出てしまう。また、周囲の目を気にしてしまうこともあり、誰でも利用しやすい工夫が必要である。</p>	<p>学生相談に関する制度について掲示などで周知徹底する。また、2019年度内に、専用の予約サイトを作成し、気軽に相談できるよう運用する。</p>	<p>学生ガイド（シラバスなど） 外部カウンセラー紹介資料（学生ガイド、校内掲示） 学生相談室案内掲示 「こころとからだの相談ダイヤル24」案内カード 校医契約書</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	3	<p>留学生担当者が常駐している。留学生ホームルームの実施や個人面談、進路相談、出入国管理局対応などを行っている。</p> <p>出席状況確認は毎時、クラスアドバイザー、留学生担当者が行っている。欠席が続いている学生に関しては自宅訪問なども行う。また、資格外活動でのアルバイト先も常に把握しており、雇用主の署名捺印のある書類を提出させている。</p> <p>留学生センターの中に「留学生支援室」を設け、留学生向け企業説明会の開催、業界求人案内、就労ビザへの変更手続きの指導などを行っている。</p> <p>指導記録は、パーソナルデータシステムに記録し教職員は随時閲覧できる環境にある。また、就職、進学先、帰国者には帰国確認まで行っており全て把握している。</p>	<p>留学生担当者のみならず、教職員の誰もがサポートできるようにすることが望ましい。</p> <p>欠席が多い学生が稀に存在している。</p> <p>就職を希望していても、年齢、語学力など様々な理由によって難しい場合や留学生向けの求人が少ないなどの問題がある。</p>	<p>留学生担当者以外の教職員にも必要最低限の知識を習得させる。</p> <p>本人との面談を実施し、問題解決に向けてサポートをしっかりと行う。</p> <p>留学生の相談体制を強化し、同時に留学生向けの就職先の開拓を積極的に行う。</p> <p>母国でのエンターテインメント企業についての情報収集を行い、就職に結び付けられるようにする。</p>	役割分担表 組織図 学生ガイド（シラバスなど） パーソナルデータシステム

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>クラスアドバイザーをはじめとした教職員が丁寧に対応している。また、精神保健福祉士による学生相談室を開設するなど、より相談しやすい環境を整えている。</p> <p>留学生への相談体制を強化し、同時に留学生向けの就職先の開拓を積極的に行う。</p>	<p>学生相談は、プライバシー保護のため専用の相談室などを利用して対応している。</p> <p>留学生に対して、前期・後期に日本語講座（オープン講座）を開講している。また、夏期休暇中には留学生就職支援講座も開講している。</p> <p>留学生が内定した企業に対しては、会社ならびに留学生本人が、ビザについて、どのような手続きが必要となるかを留学生センターのスタッフが手厚くフォローしており、企業からの信頼を得ている。</p>

## 5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	3	<p>入学時ならびに入学後に利用できる奨学金が整備されている。</p> <p>2年次後期授業料相当額を免除する東放学園奨学金制度を設けている。</p> <p>1年次後期以降の学費については、支払困難者において事前相談を受け、特例措置として分割納付を認めているが減免は行っていない。</p> <p>国の教育ローン、日本学生支援機構の奨学金などについては募集要項に記載するなどして周知している。</p>	「東放学園奨学金」は予算の関係で、利用できる学生数が限られているため、全ての経済的困窮者が受給できる訳ではない。	奨学金の枠を広げることが最善だが、原資の問題もあり検討が必要である。 災害時奨学金支援制度などの拡充を検討する。	東放学園奨学金規程 特別育英奨学金制度規程 特待生チャレンジ資料 学費延期納入願 学費延納者・未納者対応マニュアル 日本学生支援機構奨学金 東京都育英資金、国の教育ローン、地方自治体が運営する奨学金などの各案内書 募集要項
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input type="checkbox"/> 学校医を選任しているか	4	<p>具体的なガイドラインは定められてはいないが、健康診断の実施、感染症に対する基準を設けて対応している。</p> <p>近隣の医療機関と校医契約を締結している。</p>	特になし。	特になし。	健康診断書 校医契約書 学生ガイド（シラバスなど）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	<input type="checkbox"/> 保健室を整備し専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 有所見者の再健診について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 近隣の医療機関との連携はあるか		<p>保健室は設置しているが、専門職員は配置していない。今後配置する予定はない。</p> <p>入学時、進級時に健康診断を実施し、文書及びパーソナルデータシステムに保存している。</p> <p>また、診断書に基づき再検査の案内を行っている。健康診断実施機関を積極的に案内し、再検査の結果も把握するようにしている。</p> <p>今年度後期より週1回、精神保健福祉士による学生相談室の開設を再開している。また、外部契約カウンセラーの紹介や「こころとからだの相談ダイヤル24」の案内をしており、在校生は無料で利用できる。</p> <p>近隣の医療機関と校医契約を締結している。</p>			<p>健康診断書 パーソナルデータシステム</p> <p>外部カウンセラー紹介資料 (学生ガイド、校内掲示) 学生相談室案内掲示 「こころとからだの相談ダイヤル24」案内カード 校医契約書</p>
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか <input type="checkbox"/> 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか	4	<p>業者に委託した学生寮を紹介しており、アパートなどは信頼できる不動産業者を紹介している。</p> <p>様々な面において信頼できる寮長、寮母が常駐し万全を期している。</p> <p>担当部署において状況把握している。</p>	特になし。	特になし。	東放学園進学サポート

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか	3	クラブ、同好会からは毎年度、必要書類を提出させ、活動状況や構成員などを把握している。	クラブ、同好会が減少し、活発ではない。	教職員がきっかけ作りをすることによってクラブ活動を活性化することも奨励していく。	学生ガイド（シラバスなど） クラブ活動規定 部・クラブ予算書兼補助金申請書 大会出場届 大会成績報告書 東放学園ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校独自の奨学金や公的支援制度について掲示および説明会を実施し、情報提供に努めている。突発的な事情で家計が急変し、経済的に厳しくなる学生に対しては東放学園奨学金制度を活用して支援しているが、予算の関係上、全ての学生を支援するのは困難である。</p> <p>校医と連携し支障なく学校生活を過ごせる体制になっている。</p> <p>住居サポートは支障なく行われている。</p>	<p>公平性を保ちながら経済支援をどのように行うかはまだ検討の余地がある。</p> <p>AEDを設置し救命講習受講者が万が一のために備えている。</p>

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	3	<p>保護者会を学年別に開催している（5・6月）。成績表を保護者に発送している（9月）。</p> <p>また、普段の学校生活などは、「今日も、晴れのち晴れ」（公式ブログ）での発信も行っている。</p> <p>希望があれば保護者面談を実施し、内容はパーソナルデータシステムに記録している。教職員は随時閲覧できる環境である。</p> <p>学力不足や心理面等の問題解決にあたっては、保護者に密に連絡を取り学生本人の状況を報告している。</p> <p>学生の緊急連絡先は、保護者の携帯電話番号も把握している。</p>	<p>保護者会は学校の姿勢を保護者に示す良い機会であるが、発表者間での情報共有を密にして内容を決めないと、細かい説明に食い違いが起こる可能性がある。</p> <p>求人状況や就職率、成績評価についても、しっかりとした説明ができるような体制作りをしていく必要がある。</p>	<p>学生の詳細な情報については、パーソナルデータシステムを活用するなどして、教職員間での情報共有を更に徹底していく。</p>	<p>今日も、晴れのち晴れ(公式ブログ)</p> <p>パーソナルデータシステム</p> <p>保護者会配付物</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学年別の保護者会の開催や、「今日も、晴れのち晴れ」（公式ブログ）などで、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っている。学生の詳細な情報については、パーソナルデータシステムなどを活用することで、教職員間での情報共有を更に徹底していく。</p>	<p>特になし。</p>



## 5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒業後の相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか <input type="checkbox"/> 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	4	<p>東放学園キャリアサポートセンター内にある卒業生支援室と就職・デビュー支援室と協力し就職の斡旋、個別相談を随時行っている。</p> <p>不定期であるが、卒業生を対象としたキャリアアップセミナーを実施している。また、卒業後は、学校とは別組織のTOHO会（同窓会組織）に加入することになっている。</p>	特になし。	特になし。	TOHO会（同窓会組織）規約 Colorful（TOHO会会報誌） TOHO会ホームページ
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか <input type="checkbox"/> 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか	3	<p>主な業界団体には賛助会員として加盟し、東放学園キャリアサポートセンターと連携して、現在関連業界で活躍している卒業生や企業を対象に支援セミナーを開催している。</p>	固定された再教育のプログラムはなく、企画が上がった時のみの実施にとどまっている。	関連企業と連携し、定期的な実施を計画する。	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<input type="checkbox"/> 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか	3	<p>他の専修学校などで履修した科目に対する認定については学則に定めている。</p> <p>但し、社会人経験者でも基本的に扱いは新規学卒者と同じであり、現状では社会人学生を対象としたカリキュラムの設置は考えていない。</p> <p>社会人学生は若干名在籍している（新聞奨学生及び勤労学生）。履修においては時間割などでの優遇を行っている。</p>	特になし。	特になし。	学則 新聞奨学生名簿 勤労学生名簿 学生ガイド（シラバスなど）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
5-21-3 続き	<input type="checkbox"/> 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか		社会人学生も含めて全学生に対して個別相談を行っている。	関連業界が、「一社あたり新卒求人、数十人以上」といった分野ではないため、職種にこだわり過ぎると就職が困難な場合がある。経験者採用などの段階を経た就職を考えられるよう、サポート体制を整えることが今後の課題である。	就職担当者と教務教育部、東放学園キャリアサポートセンターと協力し採用の機会を増やす。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業生に対する支援は東放学園キャリアサポートセンター内にある卒業生支援室や就職・デビュー支援室と連携を取りながら行っている。また、関連業界などとの連携・協力は引き続き行う。</p> <p>社会人入学や学び直しができる環境はまだ少ない。</p>	<p>東放学園キャリアサポートセンター主催のセミナーにおいて卒業生、関連業界へのアプローチ、研修などの実績がある。</p>

## 基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><b>【施設・設備等】</b> 施設・設備は教育などに充分対応出来るよう整備されている。カリキュラムによってはホールなどの特殊施設の使用が必要である。機材などの更新は、技術革新や関連業界、企業などの動きを注視し、長期的に検討していく。休憩スペース（ロビーなど）は充分とは言えない。今後は施設のバリアフリー化を検討していく必要がある。</p> <p><b>【学外実習・インターンシップ等】</b> 学外実習、インターンシップなどについては十分な教育体制を整備している。 インターンシップに関しては企業からのニーズも多く、また卒業後の就業先としても非常に有効である為、今後は更に企業開拓をし、多くの学生に情報を提供していく。</p> <p><b>【防災・安全管理】</b> 防災体制は消防計画に基づき整備されている。各教室には避難経路を提示し、自衛消防隊を編成している。 学生および教職員全員に対して、震災対策カードを配布、周知することで、防災に対する個人の意識を高めるよう促している。 安全管理に於いては不審者対応として校舎入口に警備員を配置し、不審者の立ち入りを防いでいる。また校舎内の主要箇所には防犯カメラを設置し、24時間映像を記録している。</p>	<p><b>【施設・設備等】</b> 授業以外で学生が滞在出来るロビースペースを確保し、環境を整える。また施設のバリアフリー化も検討して行く。</p> <p><b>【学外実習・インターンシップ等】</b> インターンシップの機会を増やすべく、企業へのインターンシップ受入れを働き掛けていく。また、実習時期や期間、および学生の履修する授業との兼ね合いを調整することで、一人でも多くの学生が参加出来るよう工夫を施して行く。企業との提携契約などといった、具体的内容の検討が必要である。</p> <p><b>【防災・安全管理】</b> 従来から防災体制は整備されているものの、訓練回数が充分とは言えず、学生、教職員への防火指導が更に必要である。また大災害などを想定した防災訓練の実施や、町内の防災訓練にも積極的に参加するよう促していく。また防災に対する個人の意識を高めるべく、防災マニュアルの周知徹底および体制づくりを強化していく。 なお2つある校舎のうち警備員配置は現状1校舎のみの為、今後は警備員の増員を検討する必要がある。</p>	<p><b>【施設・設備等】</b> 外部ホールやスタジオなどといった、卒業後に実際に就労することとなる現場と同様或いはそれに近い環境を整えた施設での実習を取り入れている。</p> <p><b>【学外実習・インターンシップ等】</b> 海外研修では、日頃日本では体験出来ない関連業界のトップメーカーへの見学をスケジュールに取り入れている。</p> <p><b>【防災・安全管理】</b> 東日本大震災以降、東京都の条例にも基づき、学生、教職員が3日程度の避難生活を送れるよう備蓄品を備えている。</p>

## 6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<input type="checkbox"/> 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか <input type="checkbox"/> 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか <input type="checkbox"/> 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 卒業生に施設・設備を提供しているか	3	<p>教室のみならず、各種実習に対応できる機材などは充実し設置基準などにも適合している。</p> <p>図書室は整備され、各種実習に対応できるスタジオなども設置され有効に活用されている。</p> <p>学生の休憩・食事のためのスペースとして、学生ロビーを確保しているが、十分とは言えない。</p> <p>施設のバリアフリー化については、一部では取り組んでいるものの、全ての施設においては行っていない。</p> <p>毎日2回、委託業者により清掃が行われており衛生的な環境が確保されている。</p> <p>授業や学校行事、また、在校生が実習設備を自発的に借りて自習する時間を確保したうえで、卒業生にも施設を提供している。</p>	<p>専門学校として関連業界の設備環境を把握し、更に整備する必要がある。規模という面では、まだ十分とは言えない。</p> <p>ロビーは学生数に対して十分なスペースとまでは言えない規模であり、再検討が必要である。</p>	<p>機材やソフトウェアは定期的なリニューアルが必要となるため、長期計画を立てて予算計上していく。また校舎獲得の計画を立てる。</p> <p>物理的要因であるが、スペース確保は計画を立案して検討する。</p>	<p>学生ガイド（シラバスなど）</p> <p>機材台帳</p> <p>機器備品登録データ</p> <p>資産管理台帳</p> <p>図書登録データ</p> <p>学校施設使用申請書</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
6-22-1 続き	<input type="checkbox"/> 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか		定期点検は委託業者によって月1回行っている。 法人本部が全体的な長期修繕計画を立案し、その計画に基づき大幅な改修を実施している。	教育環境の整備は、計画性や有効性などを更に検討する必要がある。	予算的な問題で、随時改修できない場合は、年度ごとに改修計画を立てて段階的に実施していく。	定期点検報告書 長期修繕計画 改修計画(年度毎)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
施設および設備の更新は、おおむね順調に行われているが、定期的に見直す必要がある。 物理的な問題もあるが、教育設備全般は学生サービス向上のためにも継続的に検討していく。	特になし。

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input type="checkbox"/> 学外実習等の教育効果について確認しているか <input type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか <input type="checkbox"/> 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか	3	<p>学外実習、インターンシップ、海外研修などは学生ガイドにも概要を掲載し、意義・目的を明示している。実施の際はマニュアルを作成し、適切に運用している。</p> <p>イベント制作会社などと連携した企業研修や、(一社)日本ポストプロダクション協会紹介のインターンシップを行っている。</p> <p>学外実習については成績評価基準を設定し、適切に評価している。実習内容などは学校の担当者や実施機関担当者の協議により実施している。実習の効果についても、実施後のレポートなどにより適切に確認している。</p> <p>学園祭やスポーツ大会の実行委員、またオープンキャンパスの学生スタッフなどとして、学校の行事に積極的に参加している。</p> <p>行事の案内は、保護者会、卒業生向け会報、公式ブログなどで行っている。</p>	<p>インターンシップ、海外研修も任意参加である。希望者の中には経済的に困難な場合や、スケジュールにより受講が難しい場合もある。</p> <p>また、学生の成長のためにもインターンシップは、より活用例を増やしていく必要がある。</p> <p>学校行事やイベントが集中する時期は、学生・教職員ともに負担が大きい。</p>	<p>学外実習などについては実施時期の調整や回数を増やすなど、できるだけ希望する学生が多く参加できるように工夫していく。</p> <p>また、インターンシップを奨励するため、東放学園キャリアサポートセンターとも連携し、協力企業を開拓していく。</p> <p>学校行事やイベントは業務分担やスケジュールを調整し、負担をできるだけ減らすように改善する。</p>	<p>学生ガイド(シラバスなど) 海外研修パンフレット 研修報告書 インターンシップ評価 インターンシップ保険案内書 Colorful(同窓会会報誌) 今日も、晴れのち晴れ(公式ブログ)</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>企業研修やインターンシップは実施体制を整備し適正に行われているが、希望する学生が、より参加しやすいようにするため、実施の時期や回数などを工夫していく。</p> <p>また、インターンシップを更に奨励するため、東放学園キャリアサポートセンターとも連携し、協力企業を増やしていく必要がある。</p>	<p>主だった業界団体には賛助会員として加盟している。</p> <p>(一社)日本音楽制作者連盟、(一社)日本音楽スタジオ協会、日本舞台音響家協会、日本舞台音響事業協同組合、日本ミキサー協会、(一社)コンサートプロモーターズ協会、(公社)著作権情報センター、(一社)日本ポストプロダクション協会、日本音響家協会、日本舞台技術安全協会</p>

## 6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動のマニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災・消防施設・設備の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災（消防）訓練を定期的に行い、記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 備品の固定等転倒防止など安全管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 学生、教職員に防災教育・研修を行っているか	3	<p>地震防災対策は消防計画に基づき自衛消防組織を設置し有事に備えている。</p> <p>施設、設備などは耐震化に対応している。</p> <p>防災設備は管理会社に委託し定期点検を実施している。</p> <p>電気系のショートや地震などの二次災害として起こり得る機材関係のトラブルに関して、学生には授業を通じて安全管理指導を教職員が行っている。また定期的に消防訓練を実施、所轄消防署に報告し記録を保存している。</p> <p>転倒が予想される什器などには全て防止措置を講じている。</p> <p>防災・震災訓練を年1回実施し教職員の意識を高めている。学園に災害対策委員会を設置し対策と検証を行っている。</p> <p>教職員研修会において、防災マニュアルの説明を実施し、防災意識を高め、体制を強化している。</p>	<p>教職員の防災意識向上を高める必要がある。</p> <p>防災に対する体制は整備しているものの訓練回数が十分とは言えない。</p> <p>学園全体で訓練を実施する必要がある。</p>	<p>防災マニュアルなどを配付し個人意識を高め、体制を強化する。</p> <p>防災に関する研修への参加を促進する。</p> <p>教職員会議などで定期的な防災関連の確認を実施する。</p>	<p>消防計画書</p> <p>管理業務報告書</p> <p>舞台機構調整技能士参考資料</p> <p>震災対策カード</p> <p>消防訓練報告書</p> <p>学生ガイド(シラバスなど)(地震マニュアル記載)</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校安全計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し適切に運営しているか <input type="checkbox"/> 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか	3	<p>危機発生時の初期対応が重要と考え、まずは上長に第一報を入れ、情報が入る度に報告をする。事故が起きた場合、先方と接触し事実の把握・原因究明をすることになっている。</p> <p>清水橋校舎入口には警備員を配置し、不審者の侵入を防いでいる。</p> <p>主要箇所に防犯カメラの設置を行っている。</p> <p>薬品及び危険物に関しては常備していない。</p> <p>課外活動はリスクを大きくしないために、事前に計画・現地下見、安全を確認してから実施するようにしている。</p> <p>担当教職員の明確化と安全管理体制を整備している。</p>	<p>地震対応マニュアルは備えているが、授業中の事故に関しては、対応マニュアル、行動指針など明確なものがない。</p> <p>警備員が常駐していない渋谷校舎での不審者対応は、防犯カメラでのチェック以外、なされていない。</p> <p>課外活動事故対応マニュアルに基づき適切な対処をする必要があるが、事故はいつなんどき起きるかも知れず、常に緊張感を持って業務にあたる必要がある。</p>	<p>対応マニュアルなども含めて年度ごとに安全管理体制を整え、これを教職員へ周知徹底する。</p> <p>再度、課外活動事故対応マニュアルの教職員への周知徹底と意識向上を図る。</p>	<p>危機管理の心得  学生ガイド(シラバスなど)(地震マニュアル記載)  課外活動事故対応マニュアル</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>計画に基づき準備しているが、万全ではない。マニュアルの作成や訓練を通じて教職員の意識を高めていく必要がある。</p>	<p>教職員の防災体験や普通救命講習、上級救命講習、地域の防災訓練などへの参加を積極的に促している。今年度、災害対策マニュアルをリニューアルした。</p>



## 基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><b>【学生募集活動について】</b>            本校はエンターテインメント業界で活躍できる人材を育成する教育機関として、カリキュラムから学生生活、業界の動向、卒業生の状況を紹介し、入学希望者が将来をイメージできる情報の提供を実施している。また、体験入学や各種相談会などの実施により、直接相談できる機会を増やし、入学後のミスマッチの低減に努めている。</p> <p>入学希望者だけでなく高等学校の教員や保護者にも教育内容を理解してもらえるように説明している。また資料請求者は年々増え、多様化しているため、ニーズに合わせた効果的な募集活動を検討する必要がある。</p> <p><b>【入学選考について】</b>            入学制度は入学希望者の学修履歴や経験が発揮できるように、複数の方法を設定している。その入学選考基準は、入試委員会で検討して明確化し、公平な選考を実施している。また目的意識を重視した基準で適切に行われており、書類選考の場合においても事前の相談などを通し、目的意識の確認が出来るよう配慮している。</p> <p><b>【学納金について】</b>            学納金は、教育内容と社会情勢を考慮し妥当な水準を維持している。諸経費についても募集要項で明記している。</p>	<p><b>【学生募集活動について】</b>            入学希望者や保護者、高等学校の教員など、それぞれのニーズに合ったわかりやすい資料作成に努める。また紙媒体からインターネット媒体などへの移行を進めるとともに、新たなツールやイベントの検討を進める。</p> <p><b>【入学選考について】</b>            入学制度や選考基準は、時代に合うように、毎年度検討する。</p> <p><b>【学納金について】</b>            学納金は教育内容と社会環境を考慮し、毎年度検討する。</p>	<p>日本全国および海外複数国からの入学者がおり、広報・募集活動は国内のみならずアジア圏でも行っている。また、台湾には事務所を置いている。</p> <p>体験入学、学校説明会、全国各地での相談会などを実施するとともに、個別の学校見学や相談にも対応している。音楽業界の職業理解を深めてもらうため、イベント「コンサートのつくりかた」を実施している。また業界の理解を深めるため、現場で活躍している卒業生を招いた体験入学も実施している。</p> <p>入学希望者や保護者の方々のエンターテインメント業界についての理解度は高くなく、就職や労働環境などに関して厳しい印象を持たれる傾向もある。広報・募集活動では、エンターテインメント業界の特性や職種の状況を理解してもらえるように入学希望者や保護者に説明している。</p> <p>学校案内書をはじめ、保護者向け案内書、進路決定者一覧、高等学校教員向け案内書などを作成し、東放学園ホームページやメールマガジン、SNS などでは、随時最新情報を提供している。</p> <p>入学前と入学後にアンケート調査を実施して、入学希望者に与える学校の印象と現状に出来るだけ相違が無いように努めている。</p> <p>今後も、高校生だけではなく、社会人、大学生、留学生へも適切な情報提供と進学しやすい体制をつくり、発展的な学校運営が継続的に行えるような募集活動を行い、エンターテインメント業界に優秀な人材を送り出していく。</p>

## 7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	3	<p>高等学校や日本語学校などの校内ガイダンスへの参加や教職員への訪問を実施しており、教育活動などの情報提供を行うとともに、学校見学会なども開催している。</p> <p>入学希望者向けの学校案内書以外に保護者向け、高等学校教員向け、来校者向けの資料も作成し、対象者に合わせた情報提供を行っている。</p> <p>体験入学と同時に保護者説明会も開催している。</p>	エンターテインメント業界の仕組みや卒業後の進路について、高等学校などの教員や保護者の理解度は高くない。	<p>現在使用しているツールを見直すとともに、新たなツールやイベントの企画を進める。</p> <p>保護者向け資料や高等学校教員向け資料はエンターテインメント業界の動向や変化などに対応した内容とする。</p> <p>来校者向け資料（EVENT DIARY）の内容を充実させ、有効活用する。</p> <p>よりリアルな音楽・音響の現場情報を提供するため、高校訪問やガイダンスなどで、現場経験のある教員も同行できるように検討する。</p> <p>職業理解を目的とした高等学校教員向け講習会（ライブPAなど）の実施を検討する。</p>	<p>保護者のみなさまへ（保護者向けパンフレット）</p> <p>高等学校教員の皆様へ（高等学校教員向け資料）</p> <p>EVENT DIARY（入学希望者・高等学校教員向け資料）</p> <p>東放学園音響専門学校保護者説明会資料</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	<input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか <input type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか <input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか	3	<p>4 月入学に合わせて適切な時期に願書の受付を開始している。</p> <p>募集要項には、入試方法や日程を明確に記載し、専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っている。</p> <p>来校相談のほか、メールや電話での相談にも対応している。遠方在住の入学希望者への対応として、各地での独自説明会も実施している。</p> <p>具体的なカリキュラムや成果である卒業後の進路などは学校案内書や東放学園ホームページなどを制作し紹介している。</p> <p>個人情報の取扱いについては、プライバシーポリシーに基づき、情報管理を徹底している。</p>	<p>高校生を中心に社会人、大学生、留学生と多岐にわたる入学希望者、それぞれに対応した効果的かつ効率的な募集方法を考える必要がある。</p>	<p>授業の様子を動画で紹介するなど、入学希望者のニーズに合ったわかりやすい資料作成に努めるとともに、学校情報を希望者に届ける効果的な媒体についても研究を進めていく。</p>	<p>募集要項 募集要項（留学生） TOHO GAKUEN SCHOOL GUIDE （学校案内書） GUIDE BOOK for INTERNATIONAL STUDENTS （留学生向けパンフレット） 保護者のみなさまへ （保護者向けパンフレット） 高等学校教員の皆様へ （高等学校教員向け資料） 大学生・社会人のみなさまへ （大学生・社会人向けパンフレット） 進路決定者一覧 東放学園ホームページ 東放学園 Twitter 東放学園 Facebook 東放学園 LINE 東放学園 Instagram 東放学園音響専門学校保護者説明会資料 東放学園プライバシーポリシー</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	<input type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか <input type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか		<p>体験入学や学校説明会、保護者説明会、全国各地で開催する独自の説明会、「コンサートのつくりかた」などエンターテインメントの仕事を体験できるイベントやセミナー、業界で活躍している卒業生や在校生から話を聞くことができる機会を設け、学校・学科への理解を深めてもらっている。また、無料バスの運行や指定寮無料宿泊体験を実施し、遠方からも参加しやすくしている。</p> <p>入学希望者の状況に応じて3つの入学方法を設定し、募集要項にも明記している。また、AO入学エントリー面接や一般入学の面接を東京および全国各地で実施している。</p> <p>今年度よりインターネット出願を導入した。</p> <p>海外からの留学生についても2つの入試方法を設定し、募集要項(留学生)にも明記している。また入学試験は東京以外の国内外の都市でも実施している。</p>			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>入学希望者に対し、学校・学科の内容紹介だけでなく、学生生活やエンターテインメント業界の動向、卒業生の活躍を紹介するなど、将来をイメージできる情報の提供に努めている。また一方的に情報提供するだけでなく、体験入学や相談会などの実施により、実際に授業を体験したり、直接相談することができる機会を増やしている。</p>	<p>日本全国、海外への募集活動を行っており、台湾には事務所を置いている。  留學生に関しては、エンターテインメントの専門学校として高い評価を得ている韓国をはじめ、台湾、中国などアジア圏を中心に、ヨーロッパや南北アメリカなど、世界各国からの留學生が学んでいる。  入学時・2年進級時にアンケート調査を行い、本校の教育成果に対する入学希望者の認識を確認し、より正確な情報の提供を行えるよう努力している。  TOHO会（同窓会組織）との連携も年々充実してきており、業界、関係協会との連携にも取り組んでいる。</p>

## 7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	4	<p>入学選考基準、方法は、「東放学園入学試験制度規程」「東放学園 A0 入試制度規程」で定めており、その規程などに基づき適切に運用し、見直しもを行っている。</p> <p>入学選考担当者は「東放学園入学試験制度規程」を十分に把握し、選考にあたっている。</p>	特になし。	特になし。	東放学園入学試験制度規程 東放学園 A0 入試制度規程 募集要項 募集要項（留学生）
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	<input type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか <input type="checkbox"/> 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか <input type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応募者数の予測数値等との整合性を図っているか	3	<p>学科ごとに入学者の傾向、入試結果、入学手続状況を把握し、募集活動の報告書を作成している。</p> <p>入学者の傾向は、学科ごとに見直しを行い、カリキュラムや授業方法などに活用している。</p> <p>出願者数・入学者数の予測値を算出し、理事会などで検討している。財務などの計画数値との整合性を図っている。</p>	カリキュラムや授業方法の見直しは行っているが、引き続き検討する必要がある。	今後も継続的に学科ごとにカリキュラム検討会議を開催し、カリキュラム内容や授業方法の見直しを行う。	学科戦略表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考は、規程に基づき、目的意識を重視した基準で適切に行われている。	<p>本校はエンターテインメント業界の未来を築く人材育成を行う専門学校であり、職種により、その求められる人材像は多岐に渡っている。</p> <p>出願前に、相談、見学の機会などがなかった出願者の場合には、入学選考担当者から連絡を入れ、書類では把握できない点も聞き取り、入学選考に反映させている。</p>

## 7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学納金の水準を把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	4	<p>学納金は、教育内容に見合った金額を算定しており、その変更については理事会において検討、承認を得ている。また社会や経済の動向を確認し、学納金の見直しを行っている。</p> <p>学納金の水準を把握している。</p> <p>学納金等徴収する金額は、募集要項にもその内訳を明記している。</p>	特になし。	特になし。	募集要項 募集要項（留学生）
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	<input type="checkbox"/> 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	4	<p>3月31日までに入学辞退を申し出た者には授業料などの返還に応じる旨を募集要項に明記し対応している。</p>	特になし。	特になし。	募集要項 募集要項（留学生） 入学手続書類

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学納金は、教育内容と社会情勢を考慮し妥当な水準を維持している。諸経費についても募集要項で明記している。今後も社会情勢や経済状況に対応する必要があると思われる。</p>	<p>入学金、授業料などの学納金以外に必要な経費などに関しても、募集要項に掲載している。</p>

## 基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><b>【財務基盤】</b>            入学者を確保するための計画・戦略に力を入れ、財務基盤の安定に努める。収入と支出のバランスの維持を継続していく。</p> <p><b>【財務数値分析】</b>            決算書類の数値から、対前年度との比較を中心に分析を行い、必要に応じ、過去3年間の数値についても分析している。教育研究経費比率、人件費比率共に数値は適正である。</p> <p><b>【予算・収支計画】</b>            5ヵ年事業計画と、単年度事業計画に基づき、予算・収支計画を策定している。予算執行は、予算管理担当者が確認している。</p> <p><b>【会計監査の実施】</b>            法令に基づき、定期的に監査法人監査及び監事監査を実施している。</p> <p><b>【財務情報公開】</b>            私立学校法に基づく財務情報の公開について、規程などを整備し、閲覧形式にて2016年4月1日より対応を開始した。            東放学園ホームページ上での公開は、一部資料をわかりやすい表記に更新して、2019年6月より対応している。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>



## 8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<input type="checkbox"/> 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか <input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか <input type="checkbox"/> 貸借対照表の翌年度繰越収支差額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか <input type="checkbox"/> 事業活動収支計算書の当年度収支差額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか <input type="checkbox"/> 設備投資が過大になっていないか <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか	3	<p>出願者数・入学者数の把握はしている。定員充足率の推移は、必要に応じ単年度レベルでの把握としている。</p> <p>新入生数・在校生数における収入額に見合った支出額を策定し(設備投資額含)、収支バランスをとっている。</p> <p>貸借対照表の翌年度繰越収支差額はプラスである。</p> <p>事業活動収支計算書の当年度収支差額はプラスである。</p> <p>機器備品検討会議を行い、各部門間で精査し決められた予算内で計画的に設備投資を実施している。</p> <p>負債のうち、借入金はないため、財務基盤は安定している。</p>	特になし。	特になし。	資金収支計算書 事業活動収支計算書 貸借対照表
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近3年間の収支状況(事業活動収支・資金収支)による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか	4	<p>収支状況による財務分析は、決算書類の数値に基づき法人本部で行っている。必要に応じ過去3年間に渡り分析している。但し、財産目録による定型的対比は分析しづらいため、記載内容全体で比較している。</p>	特になし。	特になし。	資金収支計算書 事業活動収支計算書 貸借対照表 資金繰表

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	<input type="checkbox"/> 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか <input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況を示すデータはあるか <input type="checkbox"/> 教育研究費比率、人件費比率の数値は適切な数値になっているか <input type="checkbox"/> コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 収支の状況について自己評価しているか <input type="checkbox"/> 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか		<p>負債のうち、借入金・長期未払金はない。</p> <p>キャッシュフローの状況は、資金繰表を担当者が毎月作成し、把握している。 教育研究費比率、人件費比率共に適正值である。 コスト管理は費用対効果に留意して、複数の担当者で予算作成と執行管理を行っている。 収支の状況は、自己評価を行い、全体的にバランスがとれていると認識している。 現在は、客観的に見ても収支状況の改善が必要な状況ではないため、財務改善計画は策定していない。</p>			

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
<p>入学者数、在校生数の学費収入に見合った支出予算を引き続き維持することが重要である。教育研究費比率、人件費比率の数値は適切である。</p>	<p>特になし。</p>

## 8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	3	5 ヵ年事業計画書・単年度事業計画書に基づき、予算・収支計画を作成している。決定にあたっては理事会及び運営会議時に事前に提示し、確認を行っている。	特になし。	特になし。	5 ヵ年事業計画書・単年度事業計画書
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算の執行計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか <input type="checkbox"/> 予算規程、経理規程を整備しているか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど誤りのない適切な会計処理を行っているか	3	<p>予算執行計画は、各部門で作成している予算申請書の内容に基づき執行する。</p> <p>予算と決算に大きな乖離は生じていない。また、予算超過になる前に事前に理事会で協議の上、予備費を活用するなどの対応をしている。</p> <p>経理規程を必要に応じ整備している。予算については経理規程内に明記している。</p> <p>予算の執行は、必ず所属長の承認を受けた後に行うことを徹底している。</p>	<p>予算執行の際、各部門の経理処理を正確・適切に行う必要がある。</p>	<p>各部門の経理担当者と定期的に勉強会を実施し、知識・理解度などの更なるレベル向上を目指す。</p>	<p>予算執行の取扱いについて(資料)</p> <p>経理規程</p> <p>経理規程施行細則</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>予算執行・管理は、予算管理担当者が定期的に確認している。また、適正な勘定科目で執行されるよう、各経理担当者を集め学内での勉強会実施など、知識向上にも注力していくことが必要である。</p>	特になし。

## 8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか <input type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	4	<p>各法令などに沿って、監査法人と学園監事による監査を実施している。また、監査時の指摘事項などは記録し、理事長・法人本部長へ報告している。</p> <p>尚、監事と監査法人名が記載された監査報告書は、決算書などに添付し理事会・評議員会で承認を受けている。</p>	特になし。	特になし。	決算書(監査報告書)

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
<p>法令に基づき、定期的かつ適正に監査法人監査・監事監査が行われている。</p> <p>指摘事項については、迅速に対応することを目指している。</p>	特になし。

## 8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 財務公開の実績を記録しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	3	<p>財務公開規程(財務書類等閲覧規程)を整備し、2016年4月1日より施行した。</p> <p>閲覧公開用としての財務帳票・事業報告書は作成済である。閲覧が迅速かつ安定的に運用できるよう目指している。</p> <p>東放学園ホームページ上での公開は、一部資料をわかりやすい表記に更新して、2019年6月より対応している。</p>	担当各関係者間で、対応と手順の確認、連携などが円滑にいかない場合も予想される。	財務書類等閲覧規程を適切に運用することを、定期的に学務管理部長会議内で確認し、対応手順などを共有していく。	財務書類等閲覧規程  財産目録 資金収支計算書 事業活動収支計算書 貸借対照表 事業報告書

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>財務情報の公開(書類の閲覧)については、2016年4月1日から対応を開始した。各関係者との連携を確実にし、まずは、財務書類等閲覧規程に沿って適切に運用していくことを重視している。</p> <p>東放学園ホームページ上での公開は、一部資料をわかりやすい表記に更新して、2019年6月より対応している。</p>	

## 基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><b>【関係法令、設置基準の遵守】</b>            社会の信頼を得るべく学校運営の適正化を図るために、法令や専修学校設置基準を遵守する体制を整え、学則変更などの諸届や各種規程の整備・改定を適宜行っている。            今後、より踏み込んだ整備を進め、時代の流れに即応した適正な学校運営を進めていく。</p> <p><b>【個人情報保護】</b>            個人情報の保護に関するセキュリティ基本方針等の規程を定め、教職員・学生等に対して様々な啓発活動を実施している。また、セキュリティの脅威から情報資産を守るため様々な対策を講じている。</p> <p><b>【学校評価】</b>            自己評価は、毎年度、法人全体で委員会を発足させ、各校・各部門にて組織的に実施しており、報告書を作成し東放学園ホームページにて全文を公開している。自己評価の目的である評価後の改善についての施策やPDCAサイクルの構築が今後の課題である。            また学校関係者評価委員会報告書も同様に全文を東放学園ホームページに掲載して、広く一般へ公表している。</p> <p><b>【教育情報の公開】</b>            TOHO GAKUEN SCHOOL GUIDE や東放学園ホームページにてある程度公開している。今年度からは自己評価以外にも高等教育修学支援新制度の機関要件をクリアすべくシラバス、成績評価の実施方針、ディプロマ・ポリシーも公開している。</p>	<p><b>【関係法令、設置基準の遵守】</b>            規程などの運用管理を規定した規程等管理規程を改正し、評価と見直しを担う部署あるいは委員会を明確にした。            規程の整備については、未整備の規程や改定の必要な規程がないかどうかを洗い出す作業を継続的に進めていく。</p> <p><b>【個人情報保護】</b>            最新のセキュリティ関連情報を収集し、規程が適切に運用されているかどうか定期的な監査を担えるよう、個人情報の保護に関する専門知識とITスキルを有する教職員で構成された委員会を運営している。</p> <p><b>【学校評価】</b>            自己評価報告書を基に更に学校改善活動に取り組む。</p>	<p><b>【関係法令、設置基準の遵守】</b>            法令遵守に関する必要事項の検討や対応について、学校運営に関わるものは、主に学校と法人本部学校事務総括部が連携して行い、経営に関わるものは、法人本部法人総務部が主導で行っている。</p> <p><b>【個人情報保護】</b>            個人情報の保護に関する規程は学校事務総括部が管理している。</p> <p><b>【学校評価】</b>            学校法人東放学園 学校評価委員会            〔統括〕 部門長 1名 〔委員〕 教職員 10名             東放学園音響専門学校 学校関係者評価委員会            〔委員〕 学校有識者1名、業界関係者1名、保護者兼業界関係者1名、高校教諭1名、卒業生1名 /計5名            〔事務局〕 校長、教務教育部長、学務管理部長、音響技術科主任、音響芸術科主任、職員（書記）1名 /計6名</p>

## 9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="checkbox"/> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための方針を明確化し、防止のための対応マニュアルを策定して適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談受付窓口を設置しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	4	<p>関係法令に基づく適正な学校運営を行うため、学校と法人本部が連携して、適宜学則変更の必要な届出を行っている。学内規程の整備も随時行っている。</p> <p>ハラスメント防止について、その方針や対策を教職員向けホームページにて教職員全体へ周知している。学生に対しては、学生ガイドに取り組みを掲載しており、相談窓口も設けている。また、学生から様々な意見を受け付ける相談ポストを設置している。</p> <p>法令遵守に関する周知について、教職員には職員会議で徹底し、学生に対しては学生ガイドへの掲載やオリエンテーションにて法令遵守に基づく学校の規則やルールとして説明している。</p>	<p>法人本部において学内規程の整備を進めているが、未整備の規程や既存の規程の中にも必要な改定が成されていないケースがある。</p> <p>放送マスコミ業界・高校の教員・学生・在校生・保護者・地域からの信頼を確保するためにもスクールコンプライアンスの確立が必要である。</p>	<p>規程の整備について、法人本部と関係する部門・部署や会議体が連携して、新たな規程の制定、既存規程の改定などの必要性を洗い出す作業を継続的に進めていく。</p> <p>ハラスメント防止に関する方針や対策を明確にしたマニュアルなどを整備した上で教職員へ周知徹底する。</p>	<p>学則等届出資料 規程等管理規程 各種学内規程 ハラスメント関連の掲示物 学生ガイド（シラバスなど）</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営の適正化を図るために、関係法令や専修学校設置基準等を遵守する体制を整えている。それに基づき、時代の流れに即応した適正な運営が実施されるように学則変更などの諸届や各種規程の整備・改定などを適宜行っている。</p> <p>今後、より踏み込んだ形で整備などを進め、教職員や関係者へ周知徹底を図り適正な学校運営を進めていく。</p>	<p>法令遵守に関する必要事項の検討や対処について、学校運営に関わるものは、主に学校と法人本部学校事務総括部が連携して行い、経営に関わるものは、法人本部法人総務部が主導で行っている。</p>

## 9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	4	<p>個人情報の取扱いに関する規程を定め、学園の業務に携わる者はその遵守に努めている。また、個人情報が漏洩などの事故に遭遇した場合の善後策を準備してある。</p> <p>電子データは専任の管理者が規程に則り、保護対策、多重バックアップを実施している。紙媒体の管理は施錠保管、倉庫保管、耐火金庫保管で区分けして管理している。</p> <p>東放学園ホームページから個人情報を取得する際は、SSLでデータを暗号化して保護されたデータベースに蓄積している。</p> <p>教職員向け勉強会や校内ポスターの掲示、文書などで周知を行うことで個人情報保護の意識啓発を実施している。</p>		<p>最新のセキュリティ関連情報を収集し、規程が適切に運用されているかどうか定期的な監査を行う。その結果、規程が現場の状況に適していなければ、最新の法律や他の組織の現状を踏まえて不備や不足を見直す。</p> <p>個人情報に関する様々な事例を職員会議や研修会などを通して教職員に周知・徹底する。</p>	<p>個人情報セキュリティ基本方針、対策基準 事故・事件対応マニュアル</p> <p>ソーシャルメディアガイドライン</p> <p>プライバシーポリシーサイト ポリシー</p> <p>教職員研修資料 学内啓発ポスター</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>個人情報の保護に関するセキュリティ基本方針等の規程を定め、教職員・学生等に対して様々な啓発活動を実施している。セキュリティの脅威から情報資産を守るため様々な対策を講じている。</p> <p>IT スキルの高い教職員で組織された情報管理・システム委員会が規程の運用状況を定期的に監査し、改善が必要な場合は速やかに対策を講じている。</p>	特になし。



## 9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に係る組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	3	学則ならびに規程を整備して毎年度定期的実施している。校長、部長主導のもと、より全学的に取り組むため各主任を中心として自己評価を行っている。	評価結果に基づく改善点や具体策が教職員に周知徹底できていない場合がある。	教職員会議をはじめとする各会議体や教職員面談などで問題点を説明し、具体的な学校改善を行っていく。	学則 自己点検・評価に関する規程 自己評価報告書
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4	毎年度、報告書を作成し、東放学園コミュニティーサイトならびに学園ホームページに全文を掲載している。	特になし。	特になし。	自己評価報告書 東放学園コミュニティーサイト（教職員専用） 東放学園ホームページ
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に際して組織体制を整備し、実施しているか <input type="checkbox"/> 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	3	学則及び規定を整備し、毎年度実施している。実施に際しては校長、部長、学科主任ならびに書記を置き、組織的に開催している。委員は関連業界などから適切に選任している。 全てではないが、評価結果に基づき、改善を行っている。	学校関係者評価委員会の議事録を全教職員にメールで送り周知を図っているが、具体的な改善行動にまで持っていくことが必要である。	評価結果から改善点や見直し案などを具体的にまとめる方法を構築し、その内容を全教職員へ正確に伝えた上で組織的な改善に取り組んで行く。	学校関係者評価委員会議事録 学校関係者評価委員会報告書
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4	評価結果を報告書に取りまとめ、東放学園ホームページにて公表している。	特になし。	特になし。	学校関係者評価委員会報告書 東放学園ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>自己評価ならびに学校関係者評価は、学則及び規程を整備し、毎年度実施している。</p> <p>自己評価については、校長、部長が主導しながら、主任にあたっている教職員が中心となって行っており、より全学的な取り組みを目指している。</p> <p>自己評価ならびに学校関係者評価の結果を受けて、より具体的な施策に落とし込み、全学的に改善に取り組んでいくことが課題である。</p>	<p>特になし。</p>

## 9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか <input type="checkbox"/> 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開するための方法で公開しているか	4	<p>今年度からは東放学園ホームページに於いてシラバス、成績評価の実施方針、ディプロマ・ポリシーも公開している。</p> <p>また、担当者を設けて学校ブログを日々更新するなど、保護者や社会一般にも学校の日常が伝わるように工夫している。</p>	特になし。	特になし。	TOHO GAKUEN SCHOOL GUIDE (学校案内書) 東放学園ホームページ 学生ガイド (シラバスなど) 今日も、晴れのち晴れ (公式ブログ) TOHO GUIDE (企業向けパンフレット)

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
<p>今年度より東放学園ホームページに於いてシラバス、成績評価の実施方針、ディプロマ・ポリシーを公開している。</p> <p>学校ブログは担当者により頻繁に更新することで、保護者や社会一般にも学校の日常について情報発信を行っている。</p>	特になし。

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><b>【社会貢献・地域貢献】</b>                      学校の特色を生かした社会貢献が乏しい為、積極的な姿勢が必要である。今後は教職員の社会に目を向けた取り組みに対する意識を高める施策を講じて行く必要がある。                      近隣住民には本校への理解を深めて貰うべく、学園祭に於いて食事券を配付するなど気軽に来訪出来る機会を設けている。</p> <p><b>【国際交流】</b>                      現在は世界各国から留学生を受け入れているが、中国や台湾、韓国といったアジア地域からの留学生が最も多い現状である。今後は更に経済成長が見込まれ、且つ若年者人口の多い他のアジア地域からも留学生を受け入れることが課題である。                      また海外の教育機関との交流は今後の課題と認識しており、研修として海外の教育機関に教職員を派遣することがある。</p> <p><b>【ボランティア活動】</b>                      音響・音楽といった本校の特色に特化した学生ボランティア活動を行っているがその実績例は少ない。                      様々なボランティア活動に積極的に関われる環境作りを行っていくことが今後の課題である。計画的に活動の場を増やし、出来る限り多くの学生に参加、実施させる工夫が必要である。</p>	<p><b>【社会貢献・地域貢献】</b>                      教職員の意識を高めるような施策を検討し、教職員の社会性や視野を広げるための研修を実施する。可能な限り近隣住民にも本校の教育内容を理解して貰うべく、これまで以上にコミュニケーションの場を設ける必要がある。また教職員が区や町会の行事にも積極的に参加し、地域住民との交流を深めて行く。</p> <p><b>【国際交流】</b>                      留学生を受入れることによって文化交流が活性化することは認識しており、今後も更に前向きに検討しなければならない。                      更なるグローバル化に備え、今後も研修の一環として、海外の教育機関に対して機会を見つけて積極的に教職員を派遣して行く。</p> <p><b>【ボランティア活動】</b>                      ジャンルに関係なく、様々なボランティア活動に対して積極的に関われる環境作りを行い、学校主体となり得るものに対しては前向きな参加を促すよう努力する。                      学生に対しては社会貢献となる具体的なボランティア活動募集を提示し、積極的に参加を促して行けるような体制づくりを整えて行く。</p>	<p><b>【ボランティア活動】</b>                      ボランティア活動は、主として音響・音楽などの業界団体などに留まっている。国際交流や地域との連携は今後の課題である。紙ゴミのリサイクルはNPO団体やリサイクル業者と提携している。</p>

## 10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか <input type="checkbox"/> 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか <input type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか <input type="checkbox"/> 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための教育、研修に取り組んでいるか	3	<p>行政・地域などとの連携に関する方針、規程は特に設けてはいないが、企業と連携した教育プログラムは、実習やインターンシップ制度を活用するなどして行っている。</p> <p>国の機関からの委託研究及び雇用促進事業については受託していない。</p> <p>卒業生や関連業界へスタジオや教室などを積極的に開放している。</p> <p>高等学校内で実施されるキャリアガイダンスなどに教職員を派遣している。また中学生の修学旅行時のキャリア教育にも協力している。</p> <p>地域の受講者を対象とした講座は開講していない。</p> <p>特定非営利活動法人社会資源再生協議会の正会員となり、学校から出される紙材については、廃棄ではなくリユースに活用しており、産業廃棄物の削減に取り組んでいる。</p> <p>社会に目を向けた取組みは教育上、有効と考える。昨年度より、教員1名あたり最低でも3社に企業訪問することを課し、少しでも社会とのつながりを持つよう取り組んでいる。</p>	<p>教育プログラムはカリキュラム編成において、企業や関係団体が直接、授業・実習を行うなど、より実践的なものにしていかななくてはならない。更なる連携が必要である。</p> <p>可能な限り近隣住民にも本校の教育内容を理解してもらえよう工夫していく必要がある。</p>	<p>社会貢献・地域貢献について教職員の意識を高めるような施策を検討する。</p> <p>本校を理解してもらうためにも更に近隣の方とはコミュニケーションの場を設ける。</p> <p>教職員の社会性や視野を広げるために計画的な研修を行う。</p>	特になし。

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 海外教育機関との人事交流、研修の実施など、国際水準の教育力の確保に向け取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか	3	<p>現在は学生の指導が中心であり、留学生相互受入れや提携、共同開発は行っていない。但し海外からの見学などは可能な限り受け(体験入学などは除く)例年、世界各国から50人以上の日本留学予定者が来校する。</p> <p>教員研修として海外の学校を視察することがある。</p> <p>本校は、入学相談や留学生をサポートするための事務所を台北に設置し、積極的に情報発信を行っている。</p>	<p>留学生を受入れることによって文化交流が活性化することは認識しており、前向きに検討していきたい。</p> <p>現在は、韓国や台湾、中国が中心であるが、今後、経済成長が見込まれ、かつ若年者人口の多い他のアジア地域からの学生も受入れることが課題である。</p>	<p>グローバル人材教育のために、更に多様な留学生に対する意識を高めるため、教職員間で情報共有や啓発活動を実施する。</p>	<p>募集要項(留学生) GUIDEBOOK for INTERNATIONAL STUDENTS (留学生向けパンフレット)</p>

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>社会貢献はまだ少ない。関連団体と高等学校からの依頼によるものが大半であるため、本校からも発信する積極的な姿勢が必要である。</p> <p>海外との交流も留学生募集との関わりが大半である。海外教育機関との交流は今後の課題であると認識しており、教員研修として海外の学校を視察することがある。</p>	<p>間接部門である留学生センター内に「留学生支援室」が設置され、近年は年数回、韓国・台湾に企業開拓、OB訪問など積極的に行っている。</p>

## 10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	3	<p>学外で行われるイベントの音響スタッフなどに積極的に参加している。</p> <p>活動する際は、担当教職員が窓口となり、引率もしている。教職員が経過していない活動については把握していない。</p> <p>ボランティア活動の評価はしていない。</p>	<p>学校としてボランティア活動を行う上での教育的な認識が薄い。</p> <p>本来のボランティア精神を培う取組みが足りない。</p>	<p>気軽に参加できるものを提案して実行する。</p> <p>ボランティア活動に積極的に関われる環境作りを行い、学校主体になるものは積極的に参加を促す。</p>	各種イベント資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学外で行われるイベントの音響スタッフなどに積極的に参加している。活動する際は、担当教職員が窓口となり、引率もしている。</p> <p>ボランティア精神を涵養するため、様々な活動に積極的に関われる環境作りを行い、学校主体になるものは積極的に参加を促す。</p>	紙ゴミのリサイクルはNPO団体やリサイクル業者と提携している。

## 4 2019年度重点目標達成についての自己評価

2019年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p><b>【学修成果の可視化】(継続)</b>            昨年度の後期より、学科、学年、学期、それぞれの段階で何ができてきているか、今後、どのような技術や知識を身に着ける必要があるかを学生自身でチェックできるようにするために「目標達成シート」を作成し、学生に配付した。            それが学生の学習能力の向上にどれだけ役立っているのかの検証までには至っていないため、今年度は、年度初頭より実施し、向上が図られているのか検証する。            また、各自のシートを基に、教職員が個別に指導をすることで、苦手分野克服のためのフォローを行う。更に、各項目の集計によって苦手意識が強くみられるところは、授業での指導方法の改善に繋げる。</p> <p><b>【カリキュラム再構築(3か年)とアクティブラーニング化】</b>            カリキュラム全体の見直しのために各科目のシラバスの検証を行い、類似しているものの整理や、時代として求められているスキルとして足りていない分野や科目がないかなどを検証する。更に、学生が目指す仕事とカリキュラムの関連性が理解できるように工夫することで、目標を見失わないようにする。            アクティブラーニングによる教育の充実を目指し、教職員や講師自身の指導方法の見直しを図り、学生の学力と意欲向上に繋げる。</p> <p><b>【その他】</b>            ・授業評価の促進と有効利用            授業評価アンケートを実施しているが、集計結果を知るだけに留まっており、効果的な役割を果たせていない。実施について再度見直し、それを活かしていく。</p> <p>※1「アクティブラーニング」：教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称【2012年、中央教育審議会答申用語集より】</p>	<p><b>【学修成果の可視化】(継続)</b>            学生は「目標達成シート」を記入し、それに対して、担当教員がシートを回収し、クラスアドバイザーが学修成果の分析を行った。ただ、教員から見て「できている」と思える項目に対して、○がつけられない学生がいることが分かった。自信を持ってない、自己肯定感の低い学生がいるのではないかと考えている。            次年度に向けての指導方法の改善については、年度末に打ち合わせ予定であったが、新型コロナ感染予防対策のため、収束を待って検証することとなった。</p> <p><b>【カリキュラム再構築(3か年)とアクティブラーニング化】</b>            昨年度は、カリキュラム上、別科目でありながら内容が重複する部分もあったりなどして、学生が戸惑う場面があった。カリキュラムを見直して整理し、その問題は解消された。            学生が目指す仕事に対して、必要な学習とは何か理解するために、学科ごとの「カリキュラムマップ」を作成し学生に配付した。しかし、このマップの効果までは検証できていない。            アクティブラーニングによる実習場所の確保は出来ているが、更なる意欲向上のための学習方法の検討が必要である。</p> <p><b>【その他】</b>            ・授業評価の促進と有効利用            アンケートの設問を見直した。しかし、教員や講師に対して結果をもとにしたフィードバックをして、PDCAサイクルのようなシステム構築には至っていない。</p>	<p><b>【学修成果の可視化】</b>            目標達成シートは、個人の不安を解消し、スキルの向上を目指すことが目的であるため、検証を加えながら実施を継続する。            自信や自己肯定感をどのようにして高めるかを検討し、対策を講ずる。</p> <p><b>【カリキュラム再構築(3か年)とアクティブラーニング化】</b>            教職員ならびに講師へ、アクティブラーニングに関する研修を実施する。            また、具体的なカリキュラムの提案とアクティブラーニングを取り入れた科目を増やす。            さらに、学生がより能動的に取り組める授業となるよう、講義や実習という枠にとらわれず、授業内容や方法の改善に引き続き取り組む。</p> <p><b>【その他】</b>            ・授業評価の促進と有効利用            アンケート結果を活用した教員・講師への具体的指導を行う。</p>